

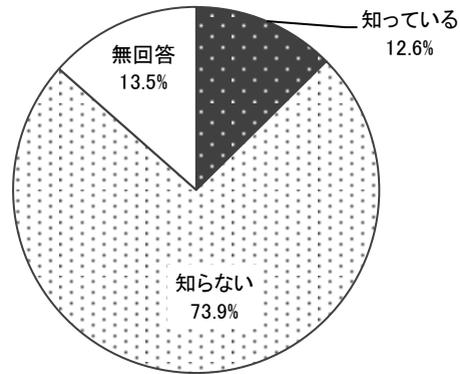
(6) 地域生活支援

問32 高齢者虐待の通報先・相談先の認知度

・高齢者虐待を受けた場合の通報・相談先については、「知らない」との回答が73.9%でかなり高くなっている。

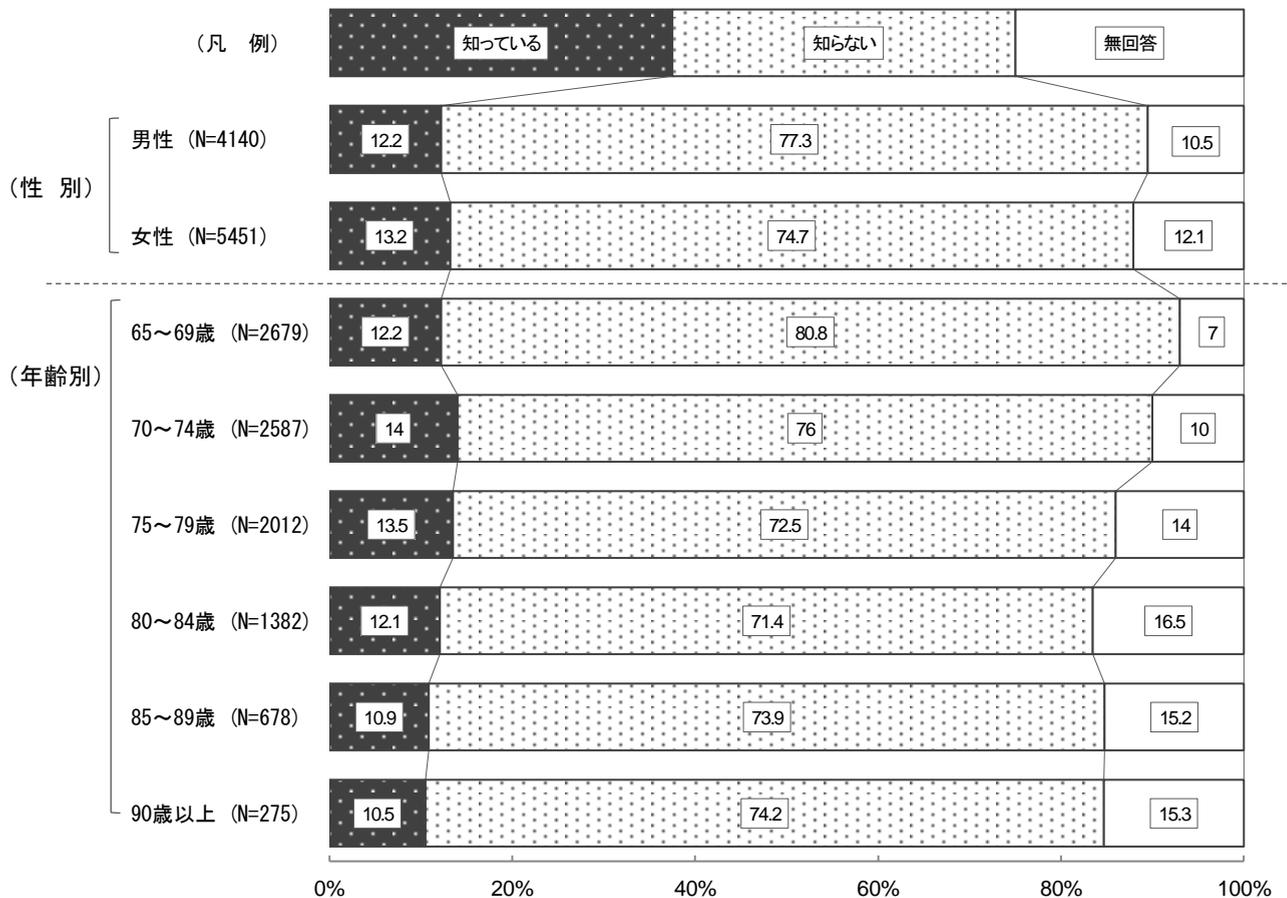
【図32 高齢者虐待を受けた場合の通報・相談先】

(N=9993)



・性別のクロス集計では、男女での大きな差はみられない。
 ・年齢別のクロス集計では、65～69歳で「知らない」が他の年齢よりも多くなっている。

【図32-a 高齢者虐待を受けた場合の通報・相談先(性別・年齢別)】

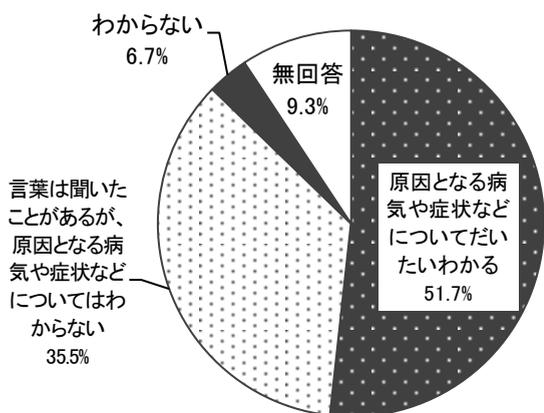


(6) 地域生活支援

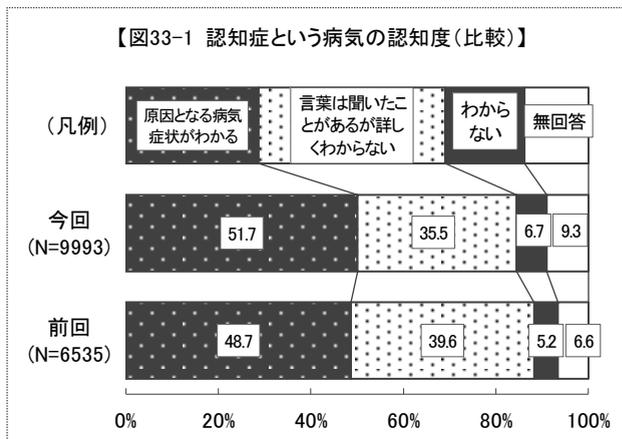
問33 認知症という病気の認知度

- ・認知症については、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」が50.1%で最も多くなっている。
- ・前回調査と比較すると、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」は3.0ポイント高くなっており、「言葉は聞いたことがあるが、原因となる病気や症状などについてはわからない」は4.1ポイント低くなっている。

【図33 認知症という病気の認知度】 (N=9993)

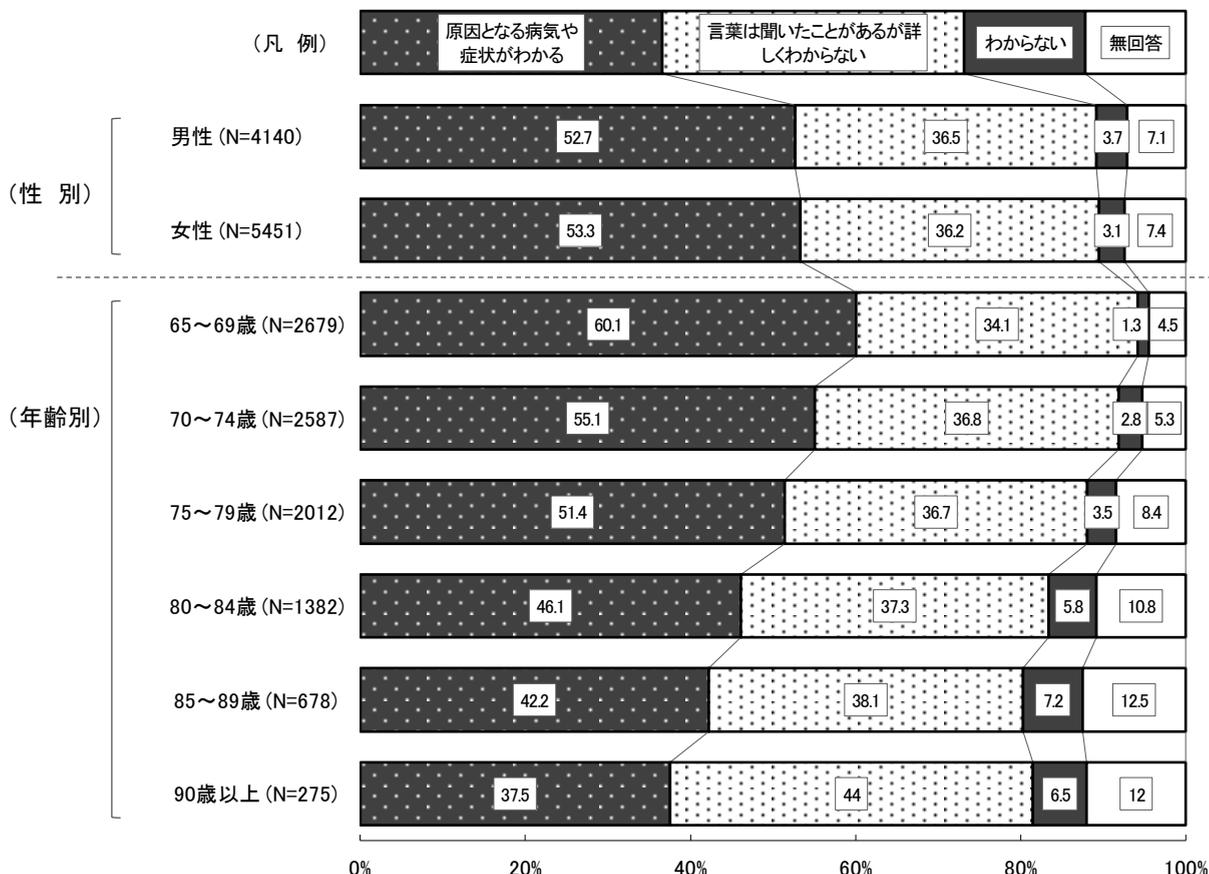


【図33-1 認知症という病気の認知度(比較)】



- ・性別でみると、男女差は特に大きくあらわれていない。
- ・年齢別では、高齢になるにつれて、詳しくわかるとの回答の割合が低下する傾向がみられる。

【図33-a 認知症という病気の認知度(性別・年齢別)】

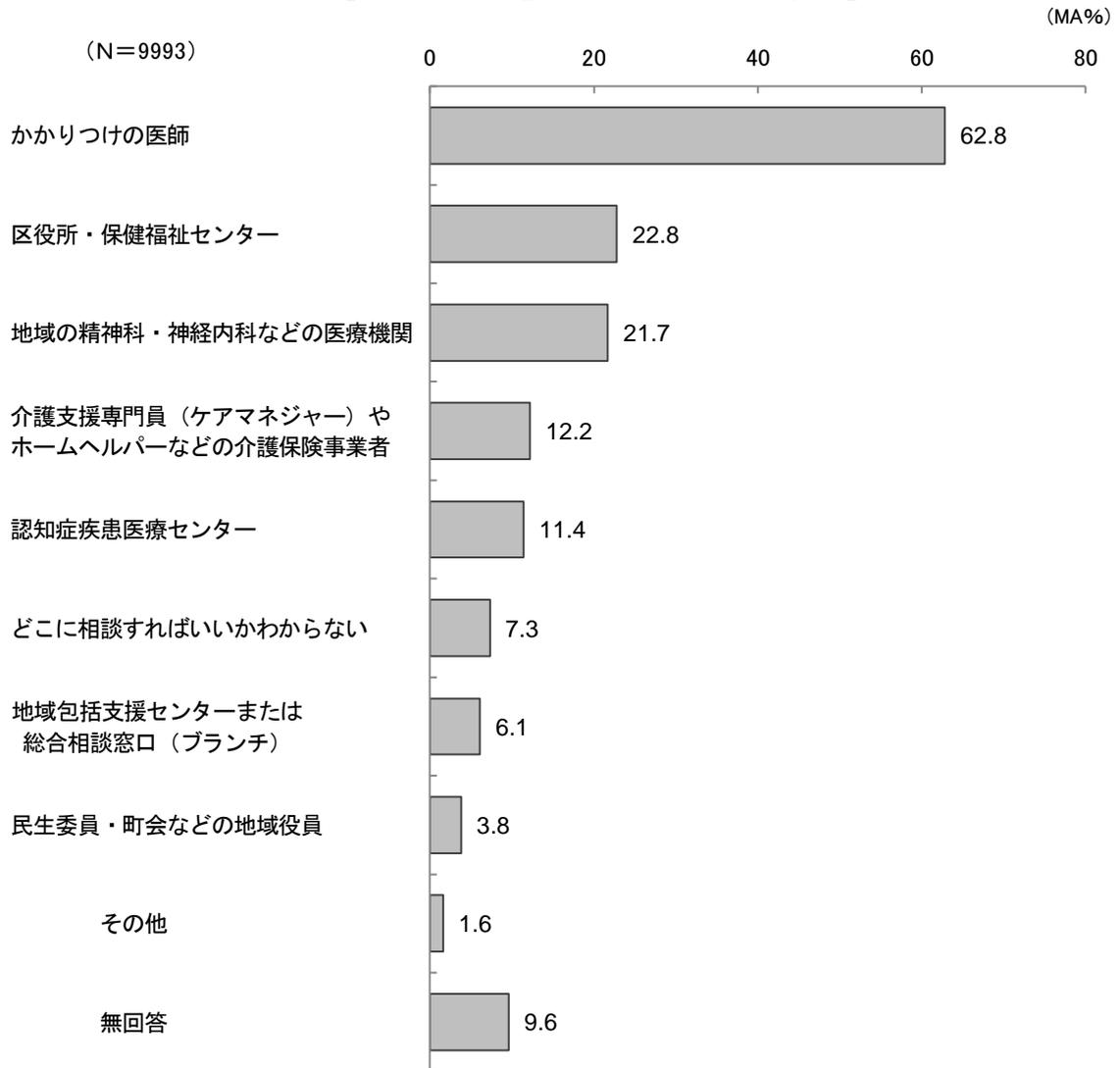


(6) 地域生活支援

問34 認知症を不安に感じるときの相談先 (複数回答)

- ・ 認知症を不安に感じるときの相談先については、「かかりつけの医師」が62.8%で最も多く、次いで「区役所・保健福祉センター」と「地域の精神科・神経内科などの医療機関」がほぼ同値となっている。
- ・ 「どこに相談すればいいかわからない」は7.3%である。

【図34 認知症を不安に感じるときの相談先】

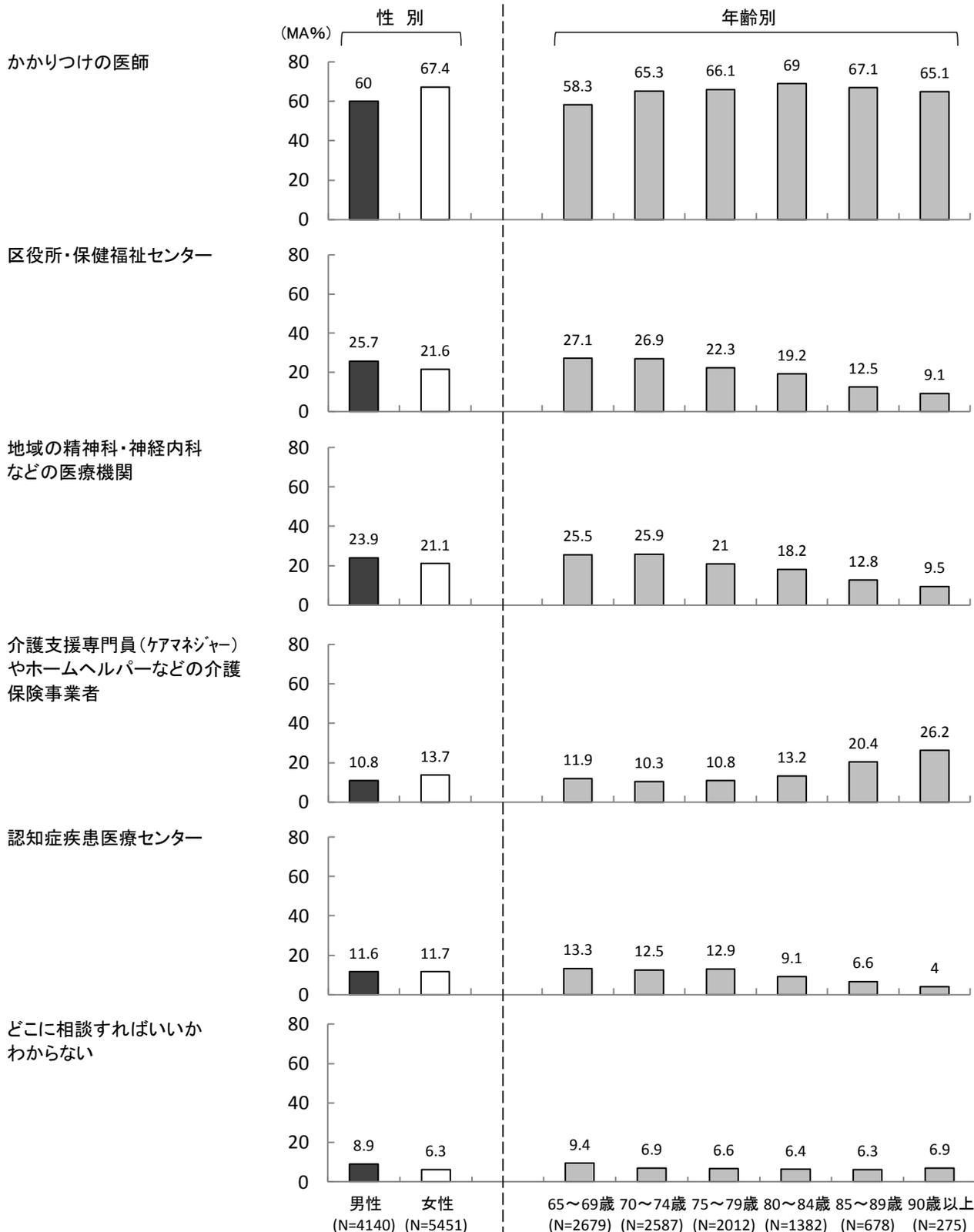


(6) 地域生活支援

問34 認知症を不安に感じるときの相談先 (性別・年齢別)

・性別で見ると、「かかりつけの医師」と回答したのは女性の方がやや多くなっており、「どこに相談すればいいかわからない」は男性の方がやや多い。
 ・年齢別では、「かかりつけの医師」と回答した人は全ての年代で最も多い。次いで「区役所・保健福祉センター」は65～84歳までの年齢で多くなっている。回答者全体では、「区役所・保健福祉センター」が2番目に多い回答となっているが、85～90歳、90歳以上では「介護支援専門員(ケアマネジャー)やホームヘルパーなどの介護保険事業者」を選んだ人が2番目に多くなっている。

【図34-a 認知症を不安に感じるときの相談先(性別・年齢別)】

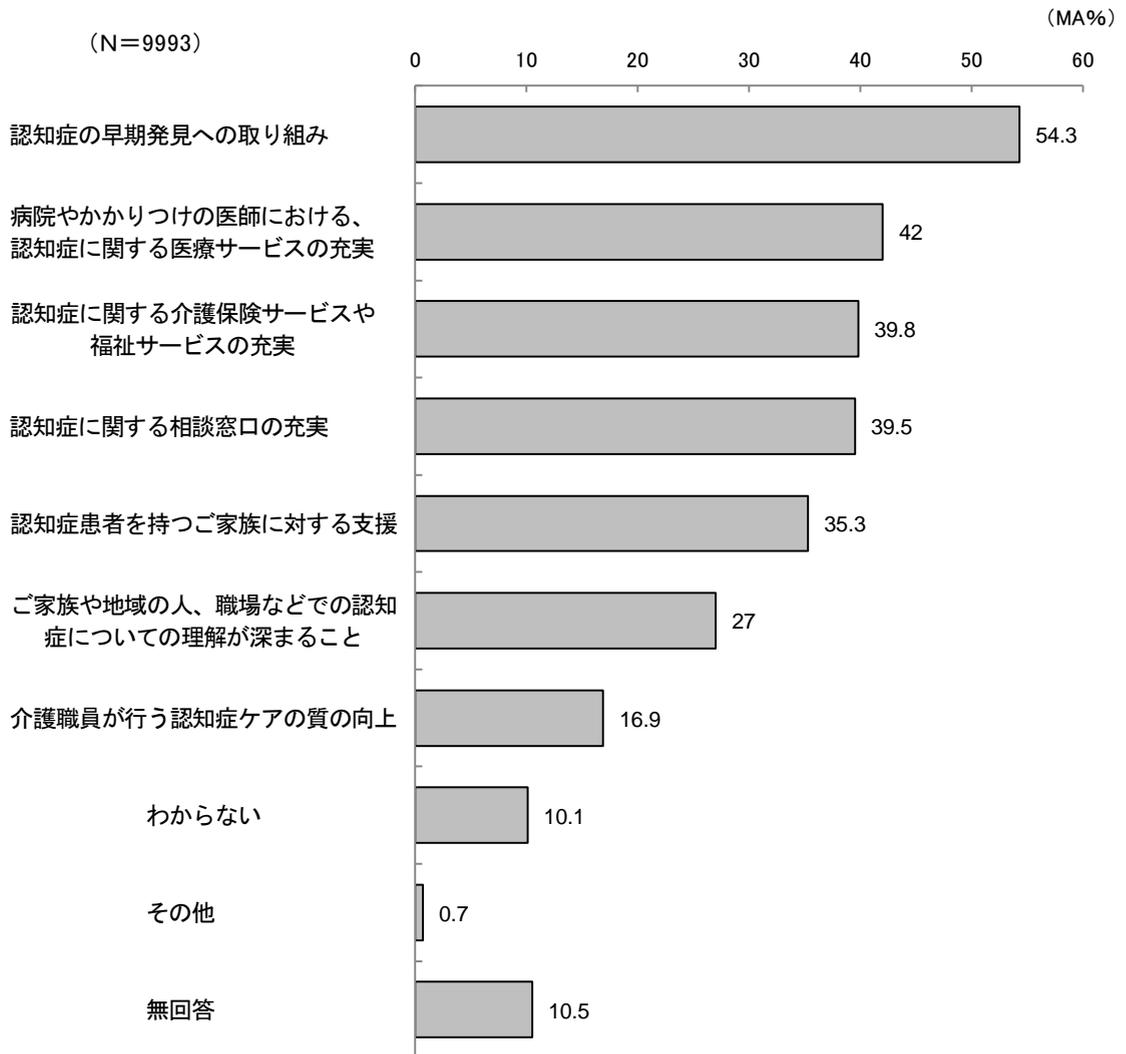


(6) 地域生活支援

問35 認知症の人の支援に必要と考えること (複数回答)

・認知症への支援に必要と考えることについては、「認知症の早期発見への取り組み」が54.3%で最も多く、次いで「病院やかかりつけの医師における、認知症に関する医療サービスの充実」が42.0%となっており、「認知症に関する介護保険サービスや福祉サービスの充実」と「認知症に関する相談窓口の充実」がほぼ同値となっている。

【図35 認知症への支援に必要と考えること】

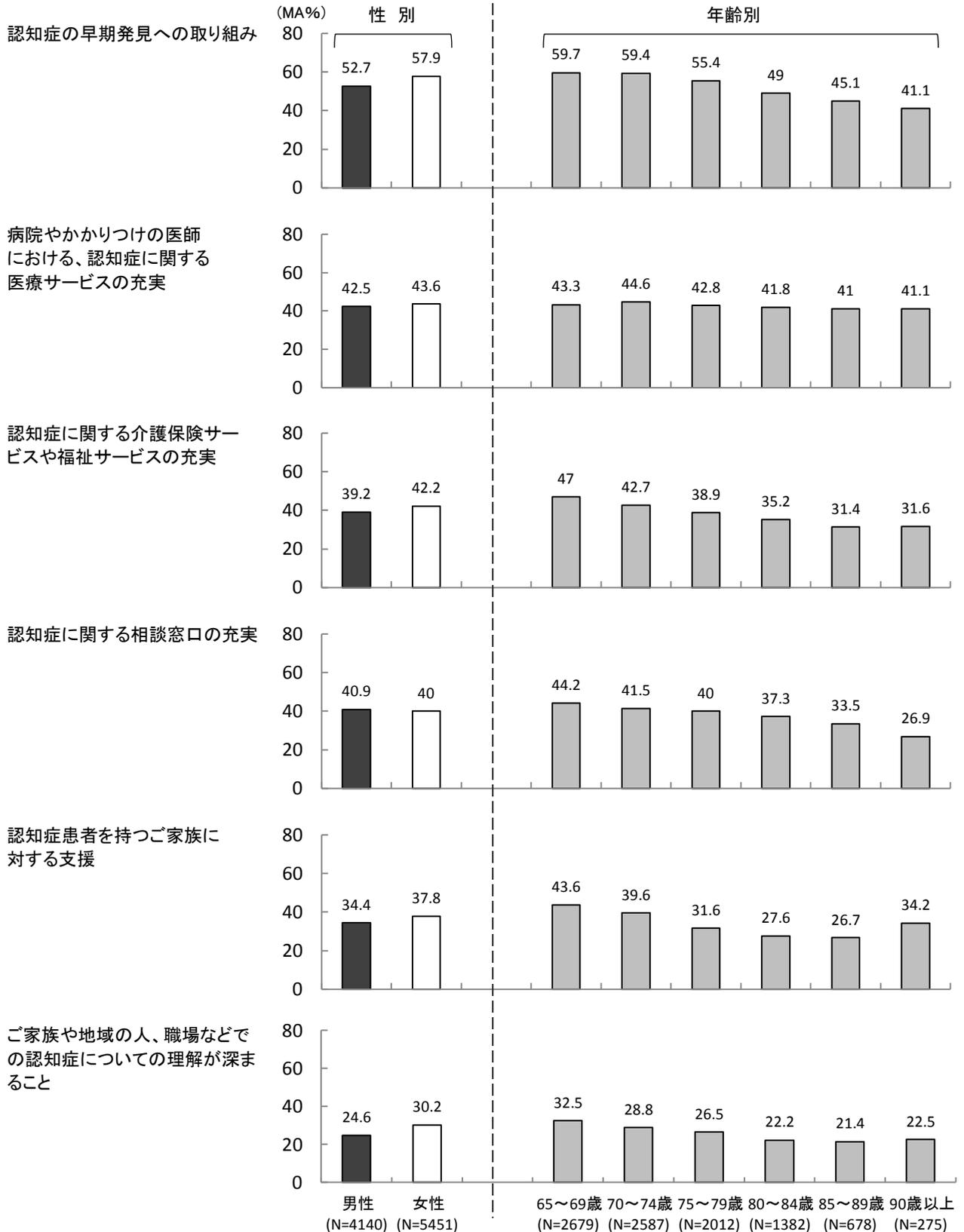


(6) 地域生活支援

問35 認知症の人の支援に必要と考えること (性別・年齢別)

- ・性別で見ると、「認知症に関する相談窓口の充実」以外は女性の方がやや高い傾向が見られる。
- ・年齢別では、「認知症の早期発見への取り組み」は全ての年齢で最も高くなっている。
- ・「病院やかかりつけの医師における、認知症に関する医療サービスの充実」は、65～69歳の中では5番目であるが、70歳以上の各年齢別の中では2番目に多い。

【図35-a 認知症への支援に必要と考えること(性別・年齢別)】

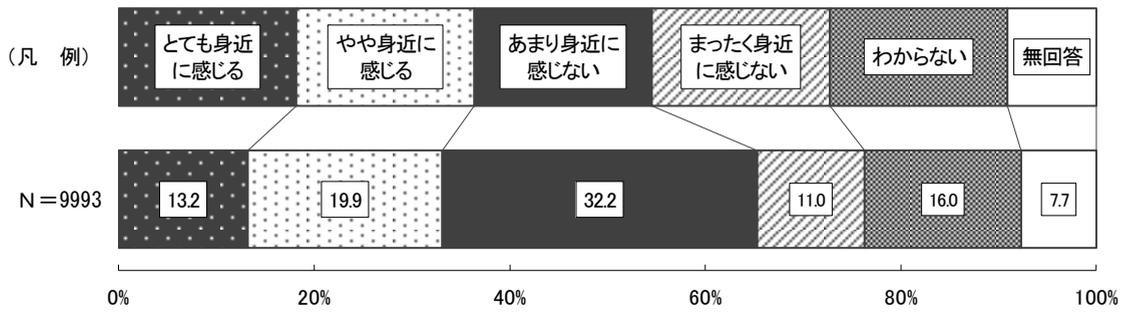


(7) 地域生活支援

問36 孤立死について考えること

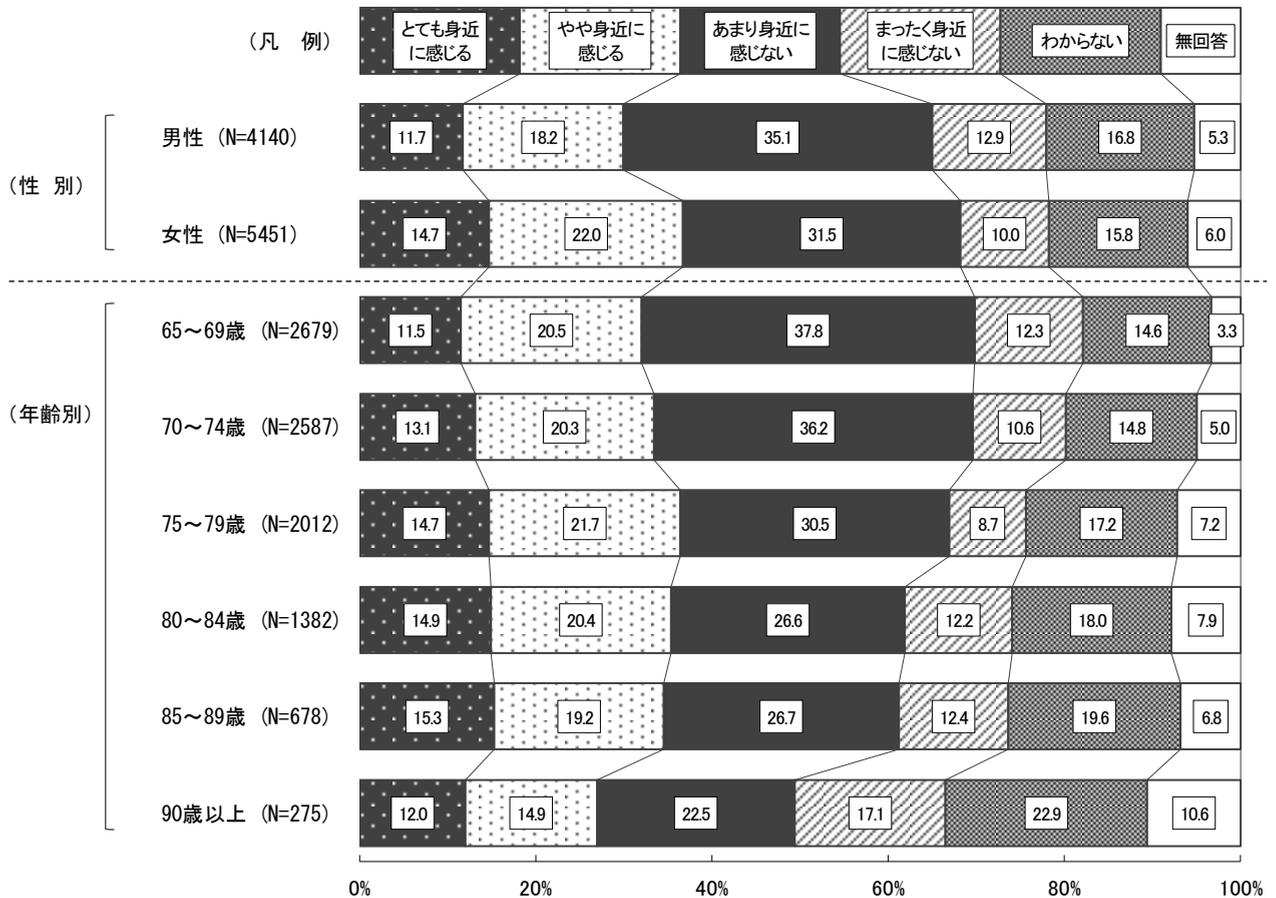
・孤立死について考えることは、「あまり身近に感じない」が32.2%と最も高く、「まったく身近に感じない」と合わせると43.2%となっている。
 ・「とても身近に感じる」と「やや身近に感じる」は、合計すると33.1%であり、3割を超える方が身近だと感じている。

【図36 孤立死について考えること】



・性別で見ると、「とても身近に感じる」「やや身近に感じる」ともに、女性の方が割合が高い。
 ・年齢別では、「あまり身近に感じない」「まったく身近に感じない」の合計が最も多いのは65～69歳であり、「とても身近に感じる」「やや身近に感じる」の合計が最も多いのは75～79歳となっている。また、90歳以上では「とても身近に感じる」「やや身近に感じる」の合計は最も少ないが、「わからない」が最も多い。

【図36-a 孤立死について考えること(性別・年齢別)】

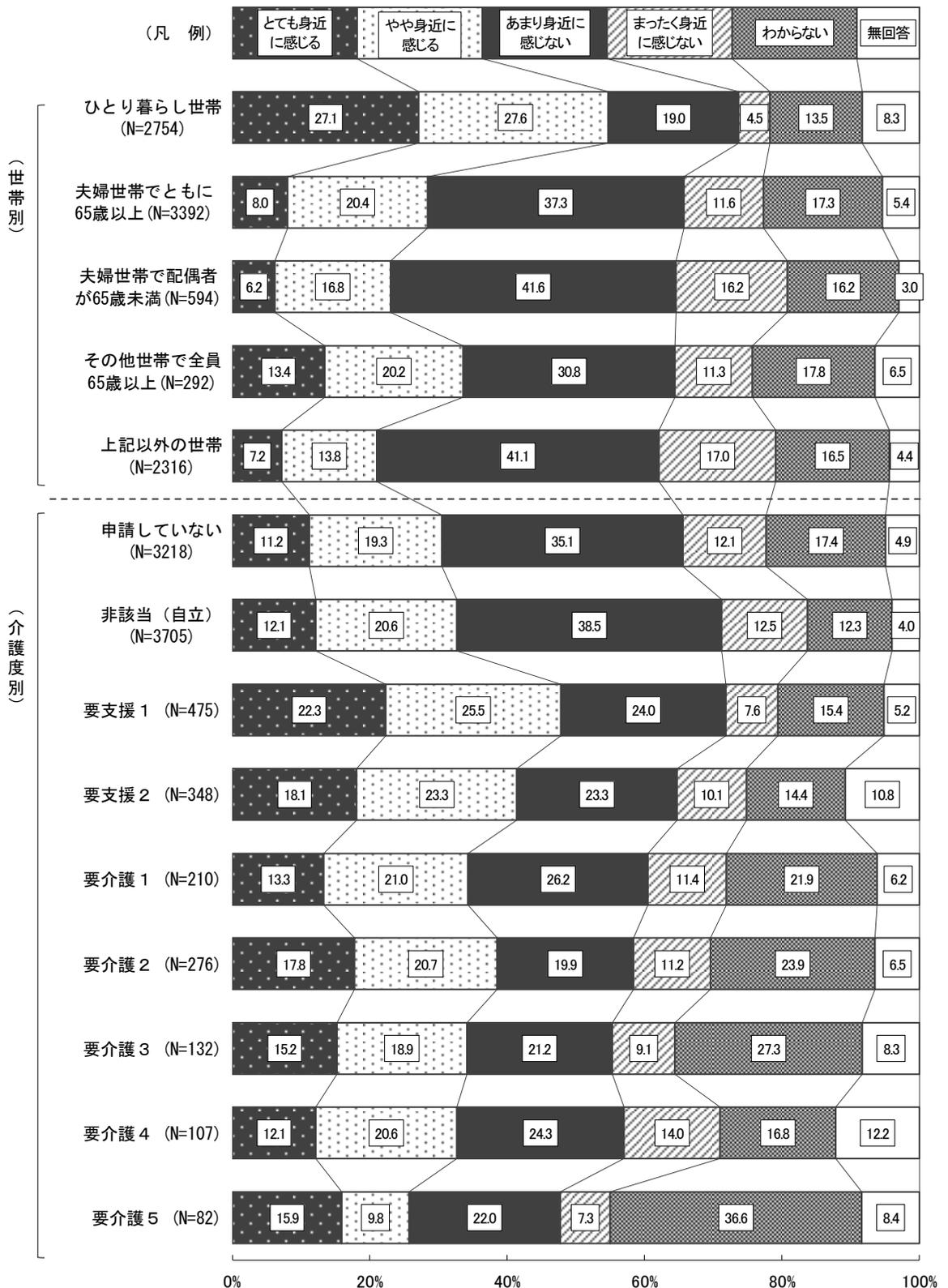


(7) 地域生活支援

問36 孤立死について考えること (世帯別・介護度別)

・世帯別でみると、ひとり暮らし世帯では、「とても身近に感じる」「やや身近に感じる」の合計が54.7%で最も多く、回答者全体【図36】の33.1%と比べるとかなり高い割合となっている。
 ・介護度別では、「とても身近に感じる」「やや身近に感じる」の合計は、要支援1が最も多く、次いで要支援2となっている。「あまり身近に感じない」「まったく身近に感じない」の合計は、非該当(自立)が最も多い。

【図36-b 世帯別・介護度別(孤立死について考えること)】

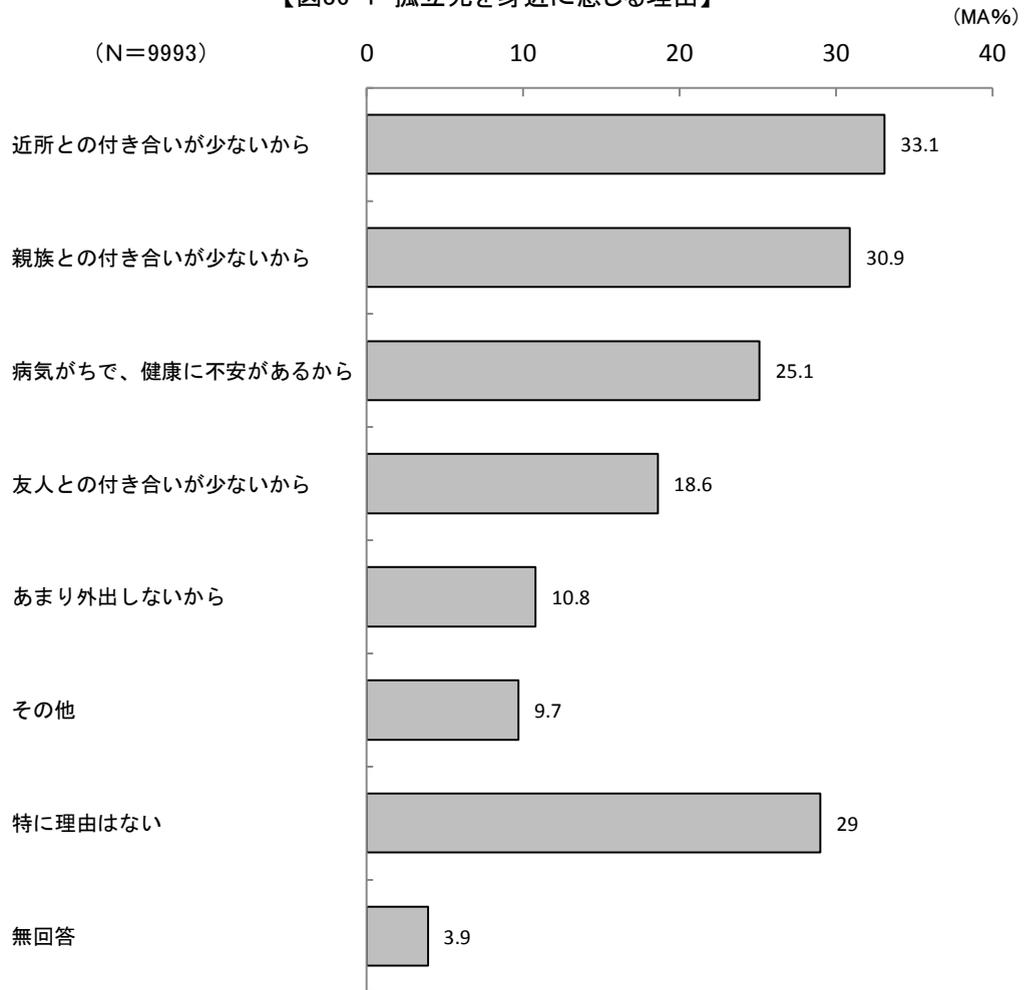


(7) 地域生活支援

問36-1 (孤立死を身近だと感じる方) 孤立死を身近に感じる理由 (複数回答)

・孤立死を身近に感じると回答した人に、身近だと感じる理由をたずねると、「近所との付き合いが少ないから」が33.1%と最も多く、次いで「親族との付き合いが少ないから」が30.9%となっている。

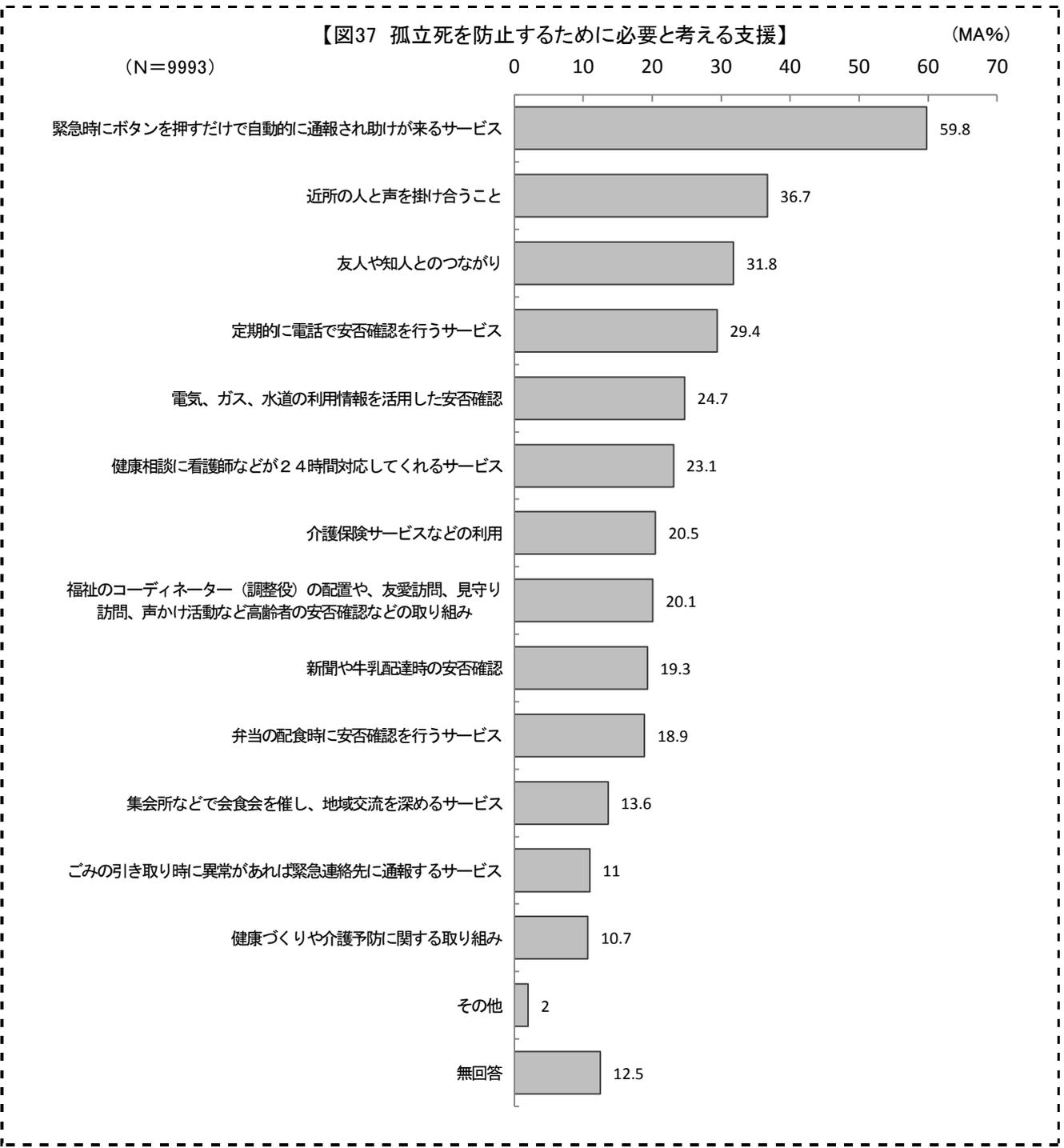
【図36-1 孤立死を身近に感じる理由】



(7) 地域生活支援

問37 孤立死を防止するために必要と考える支援 (複数回答)

・孤立死を防ぐために必要と考える支援については、「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」が59.8%と最も多くなっており、6割近い方がこの選択肢を選んでいる。次いで「近所の人と声を掛け合うこと」が36.7%、「友人や知人とのつながり」が31.8%であり、身近な関係を重視する項目を選択する方が多くなっている。

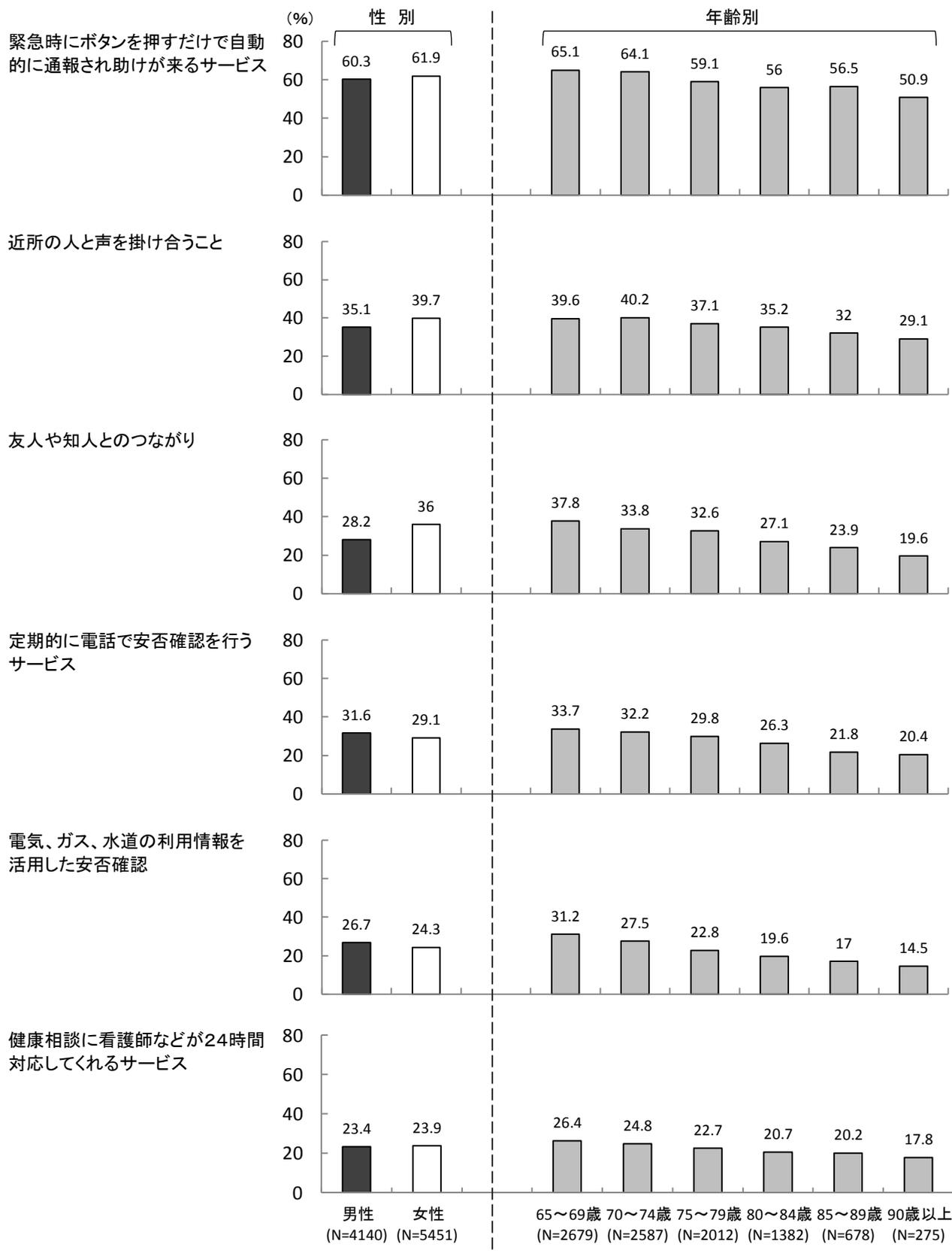


(7) 地域生活支援

問37 孤立死を防止するために必要と考える支援 (性別・年齢別)

- ・性別、年齢別でも、「緊急時にボタンを押すだけで自動的に通報され助けが来るサービス」が最も多くなっている。
- ・性別では、「定期的に電話で安否確認を行うサービス」「電気、ガス、水道の利用情報を活用した安否確認」で男性の方がやや高く、それ以外では女性の方が高い。
- ・年齢別では、各選択肢ごとの順位は、おおむね共通している。

【図37-a 孤立死を防止するために必要と考える支援(性別・年齢別)】

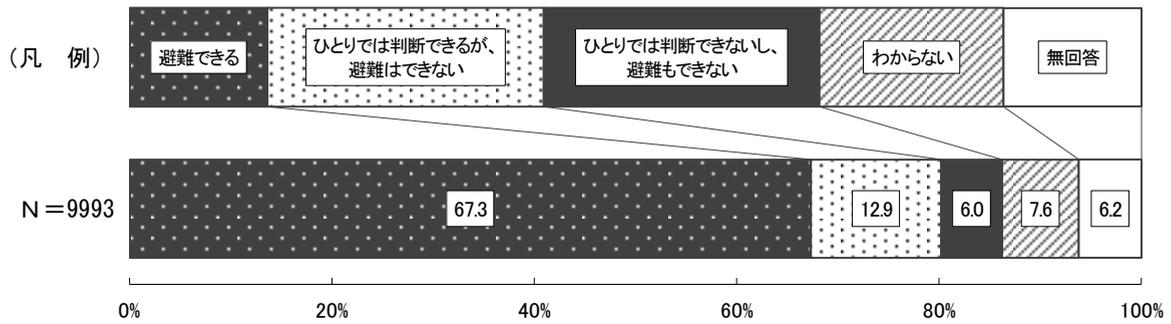


(7) 地域生活支援

問38 災害時・緊急時にひとりで避難が可能か

・災害・緊急時の避難については、「避難できる」が67.3%と最も多い。一方、「避難できない」との回答のあった方は、18.9%となっている。
・また、「わからない」は7.6%で、「ひとりでは判断できないし、非難もできない」の6.0%よりも多くなっている。

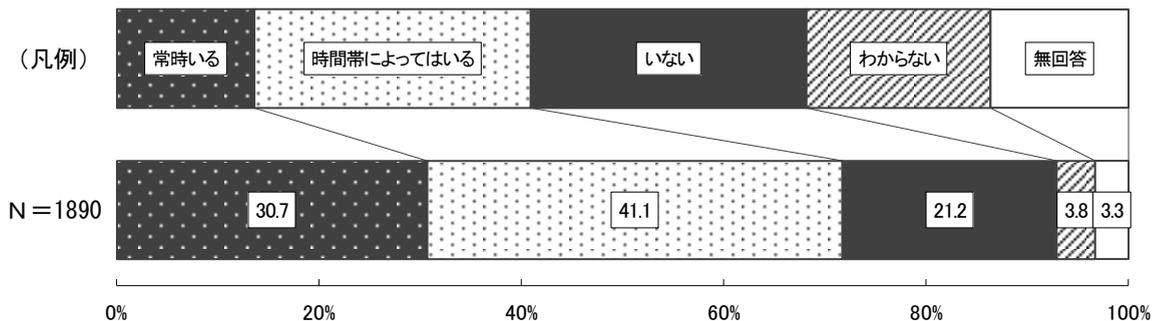
【図38 災害時・緊急時にひとりで避難が可能か】



問38-1 (ひとりで避難できない方) 手助けを頼める人の有無

・災害・緊急時にひとりで避難できないと回答した人に、助けを頼める人の有無についてたずねると、「常時いる」「時間帯によってはいる」との回答が7割を超える。
・他方、ひとりで避難できない方の約2割の方は、手助けを頼む人もいないとの結果となっている。

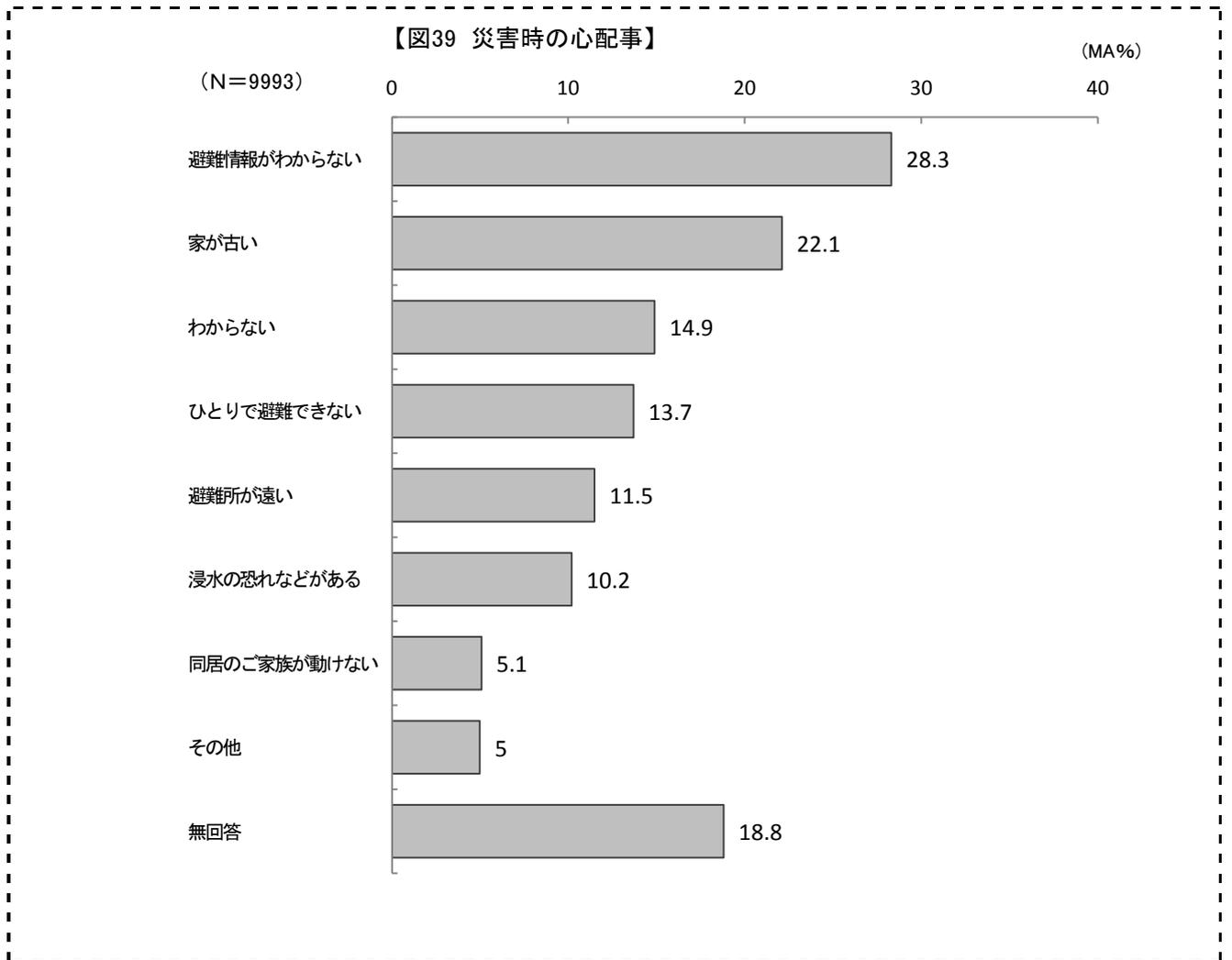
【図38-1 手助けを頼める人の有無】



(7) 地域生活支援

問39 災害時の心配事 (複数回答)

・災害時の心配事については、「避難情報がわからない」が28.3%と最も多く、次いで「家が古い」が22.1%となっている。

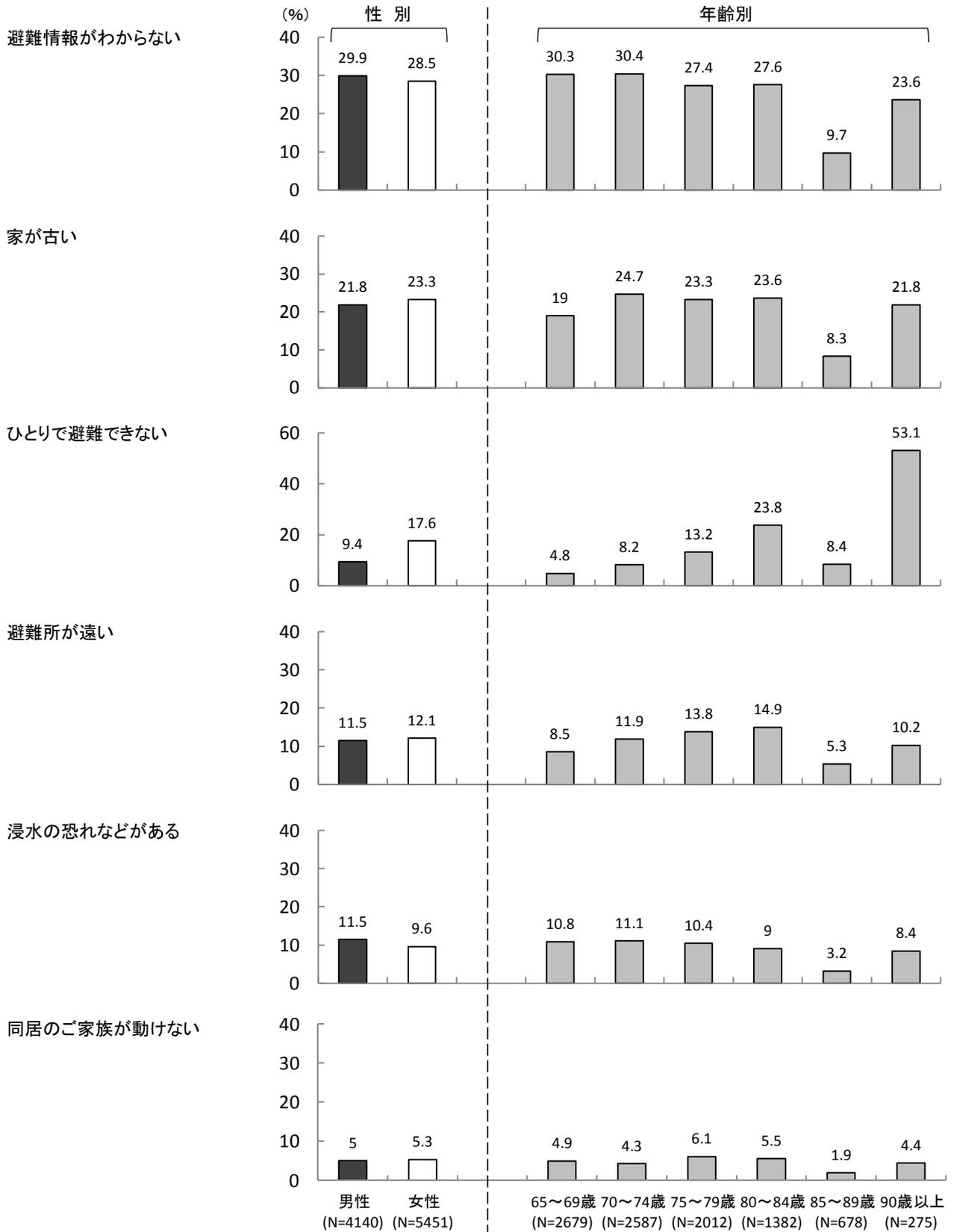


(7) 地域生活支援

問39 災害時の心配事 (性別・年齢別)

・性別で見ると、「ひとりで避難できない」が女性の方が男性よりも8.2ポイント高くなっており、その他については大きな差はみられない。
 ・年齢別のクロス集計では、「ひとりで避難できない」が90歳以上が最も多くなっている。「避難情報がわからない」は85～89歳は他の年齢よりも低い、同一年齢の中では最も多い。

【図39-a 災害時の心配事(性別・年齢別)】

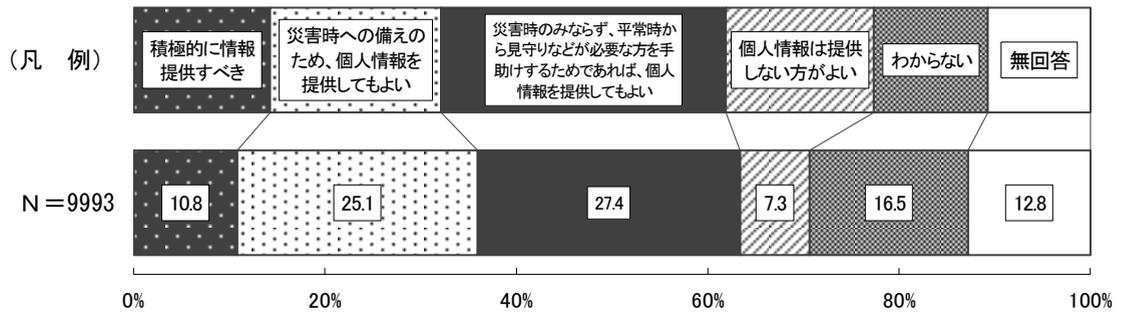


(7) 地域生活支援

問40 個人情報の地域団体等への提供についての考え

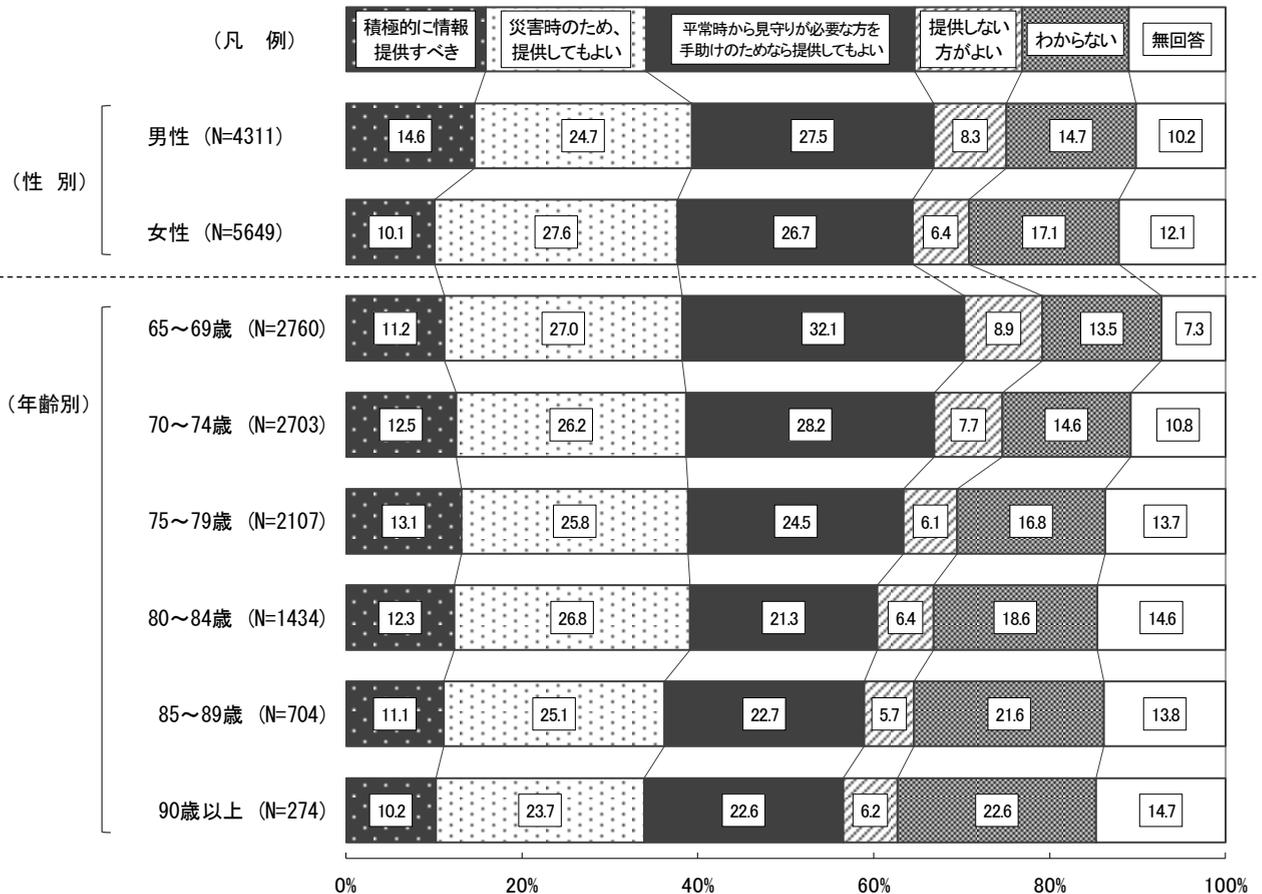
・個人情報の提供について感じることにについては、「災害時のみならず、平常時から見守りなどが必要な方を手助けするためであれば、個人情報を提供してもよい」が27.4%と最も多い。
 ・災害時の支援に限れば、「積極的に個人情報を提供すべき」(10.8%)、「災害時への備えのため、個人情報を提供してもよい」(25.1%)とを合わせると、『提供してもよい』との回答が63.3%となっている。

【図40 個人情報の提供についての考え】



・性別では、「積極的に情報提供すべき」は男性の方が多いが、「提供しない方がよい」も男性の方が多い。また、「災害時のため、提供してもよい」は女性の方が多い。
 ・年齢別でみると、「積極的に情報提供すべき」は75～79歳が他の年齢区分に比べてやや高くなっており、「平常時から見守りが必要な方を手助けのためなら提供してもよい」は65～69歳が最も多い。

【図40-a 個人情報の提供についての考え(性別・年齢別)】

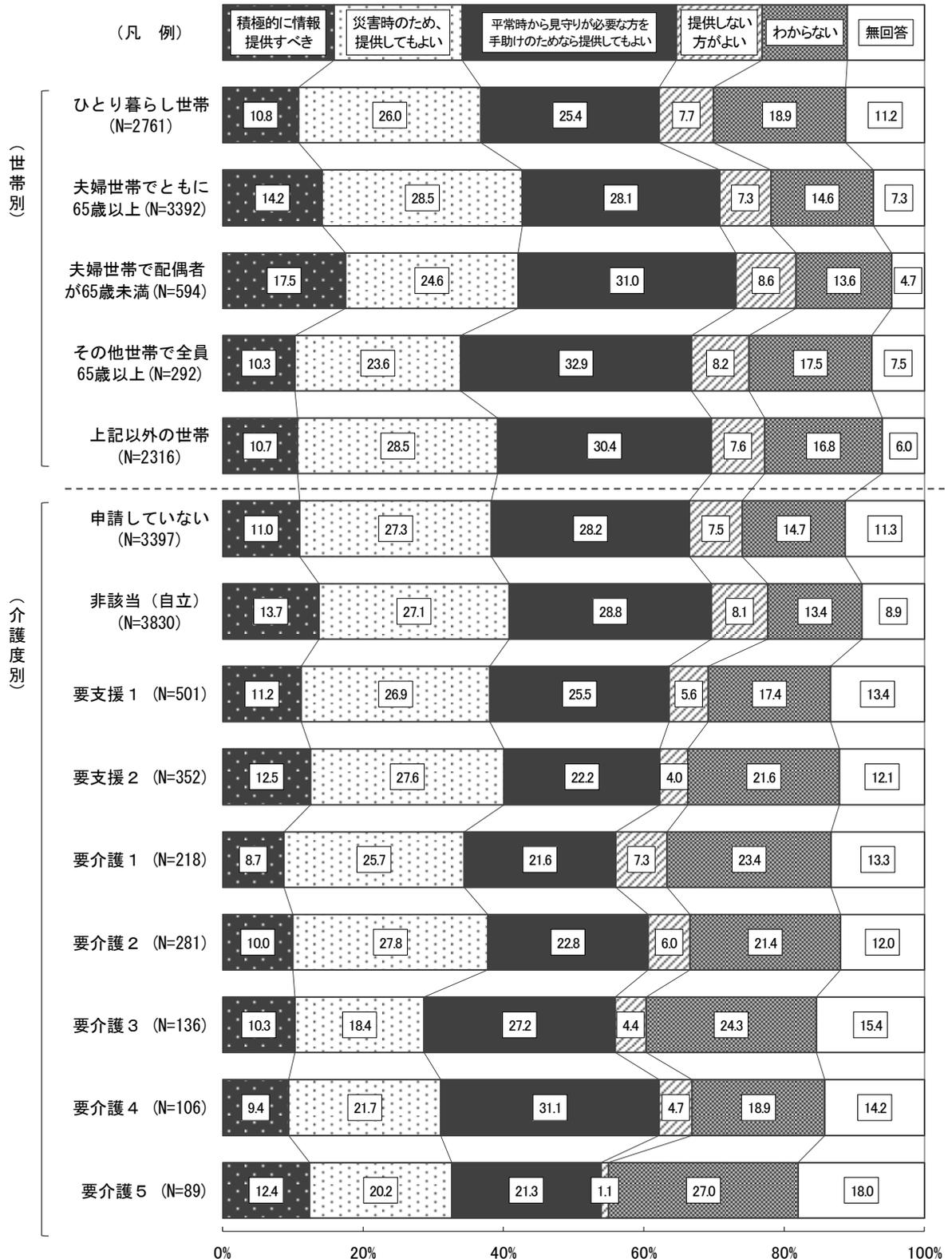


(7) 地域生活支援

問40 個人情報の地域団体等への提供についての考え (世帯別・介護度別)

・世帯別でみると、「夫婦で配偶者が65歳未満の世帯」は、「積極的に情報提供すべき」が最も多くなっている一方で、「提供しない方がよい」も最も多い。また、「平常時から見守りが必要な方を手助けのためなら提供してもよい」は、「夫婦とともに65歳以上の世帯」の割合が最も多く、「ひとり暮らし世帯」で、最も少ない。
 ・介護度別では、「積極的に情報提供すべき」は非該当(自立)が最も多いが、「提供しない方がよい」も最も多い。また、「災害時のため、提供してもよい」は要介護2が最も多く、「平常時から見守りが必要な方を手助けのためなら提供してもよい」は要介護4が最も多くなっている。

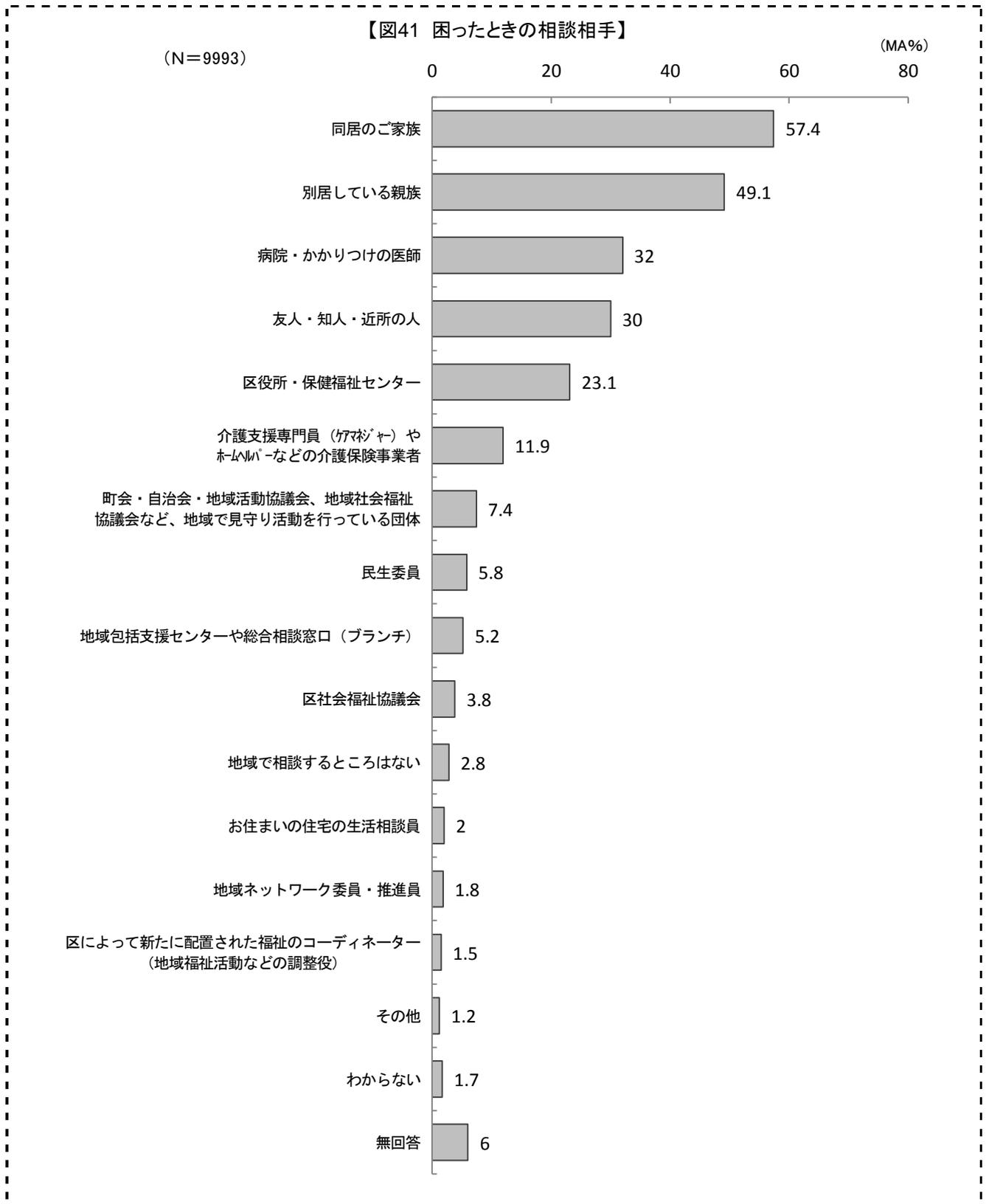
【図40-b 個人情報の提供についての考え(世帯別・介護度別)】



(7) 地域生活支援

問41 困ったときの相談相手 (複数回答)

・困ったときの相談相手は、「同居のご家族」が57.4%と最も多く、次いで「別居している親族」が49.1%となっており、同居・別居を含め、相談相手を家族、親族にするとの回答が高くなっている。
 ・家族、親族を除くと、「病院・かかりつけの医師」が32.0%で最も高く、次いで、「友人・知人・近所の人」となっている。



(8) 高齢者施策全般

問42 高齢者向け施設や事業の利用状況・意向

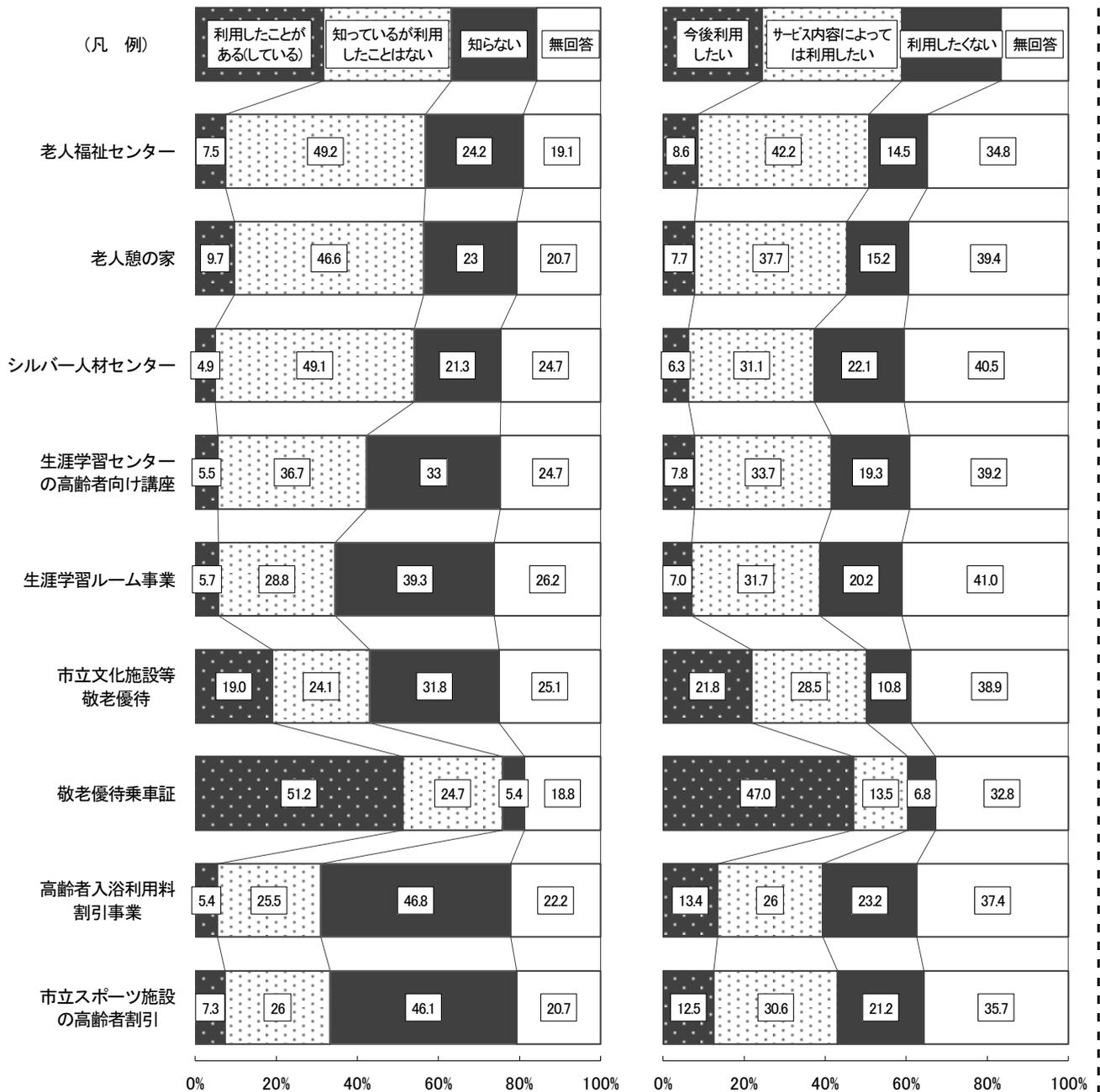
・高齢者向け施設や事業の利用状況は、「敬老優待乗車証」について「利用したことがある」の回答割合が他と比べ大幅に高くなっている。他の施設や事業については、「知っているが利用していない」との回答割合が多いが、「知らない」の回答割合が多い施設や事業もある。

・高齢者向け施設や事業の利用意向についても、「敬老優待乗車証」の「今後利用したい」の回答割合が他と比べて大幅に高くなっている。その他の事業については、「サービス内容によっては利用したい」との回答割合が比較的高い。

(N=9993)

【図42① 施設や事業の利用状況】

【図42② 施設や事業の利用意向】



(8) 高齢者施策全般

問43 高齢者向け福祉サービス、制度の利用状況・意向

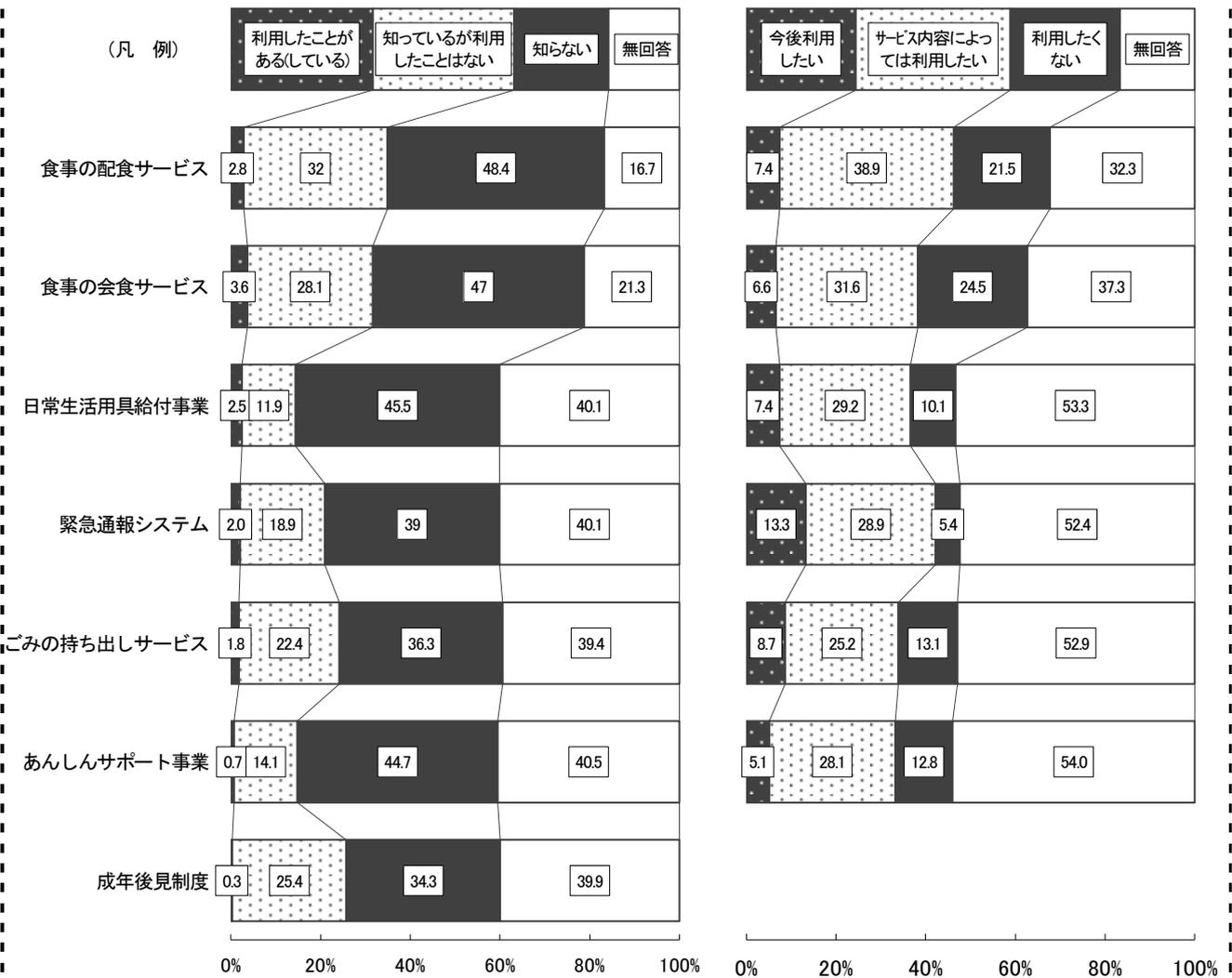
・高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況については、世帯等による利用制限のある事業が含まれるため、いずれの事業とも、「知らない」の回答割合が高くなっている。

・高齢者向け福祉サービス・制度の利用意向について、「食事の配食サービス」については、世帯等による利用制限があるものの、「今後利用したい」「サービス内容によっては利用したい」をあわせると46.3%が利用意向があるとの回答となっている。他のサービスについても、利用意向があるとの割合が高くなっている。

(N=9993)

【図43① 福祉サービス・制度の利用状況】

【図43② 福祉サービス・制度の利用意向】

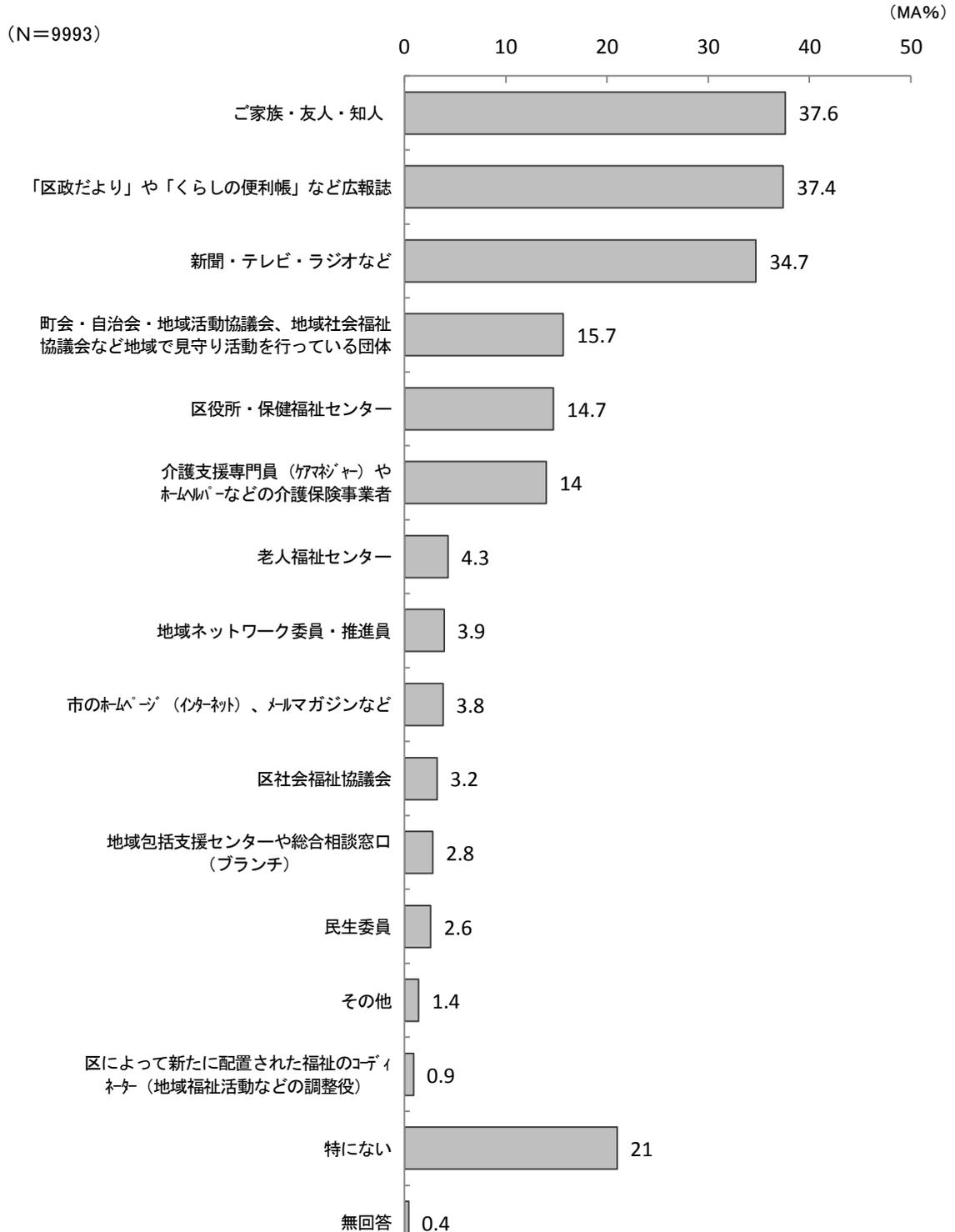


(8) 高齢者施策全般

問44 高齢者向けサービスの情報の入手方法 (複数回答)

・高齢者向けサービスなどに関する情報の入手方法については、「ご家族・友人・知人」が37.6%と最も多く、次いで「区政だより」や「くらしの便利帳」など広報誌が37.4%、「新聞・テレビ・ラジオなど」が34.7%となっている。
・他方、約2割の方は、入手方法が「特にない」と回答されている。

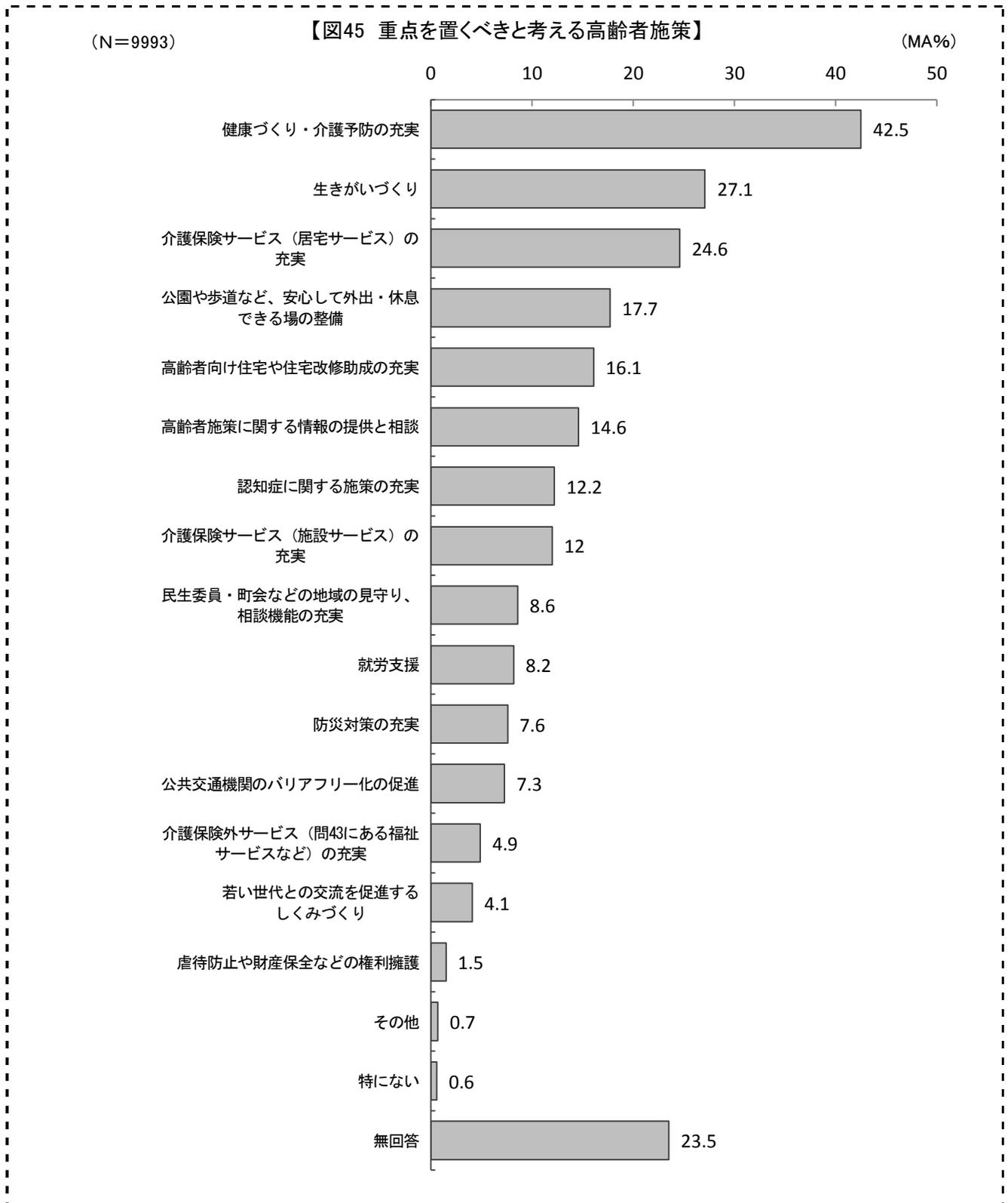
【図44 高齢者向けサービスの情報の入手方法】



(5) 高齢者施策全般

問45 重点を置くべきと考える高齢者施策 (回答3つまで)

・高齢者のための施策として重点をおくものとしては、「健康づくり・介護予防の充実」が42.5%と最も多く、次いで「生きがいがづくり」が27.1%、「介護保険サービス（居宅サービス）の充実」が24.6%となっている。

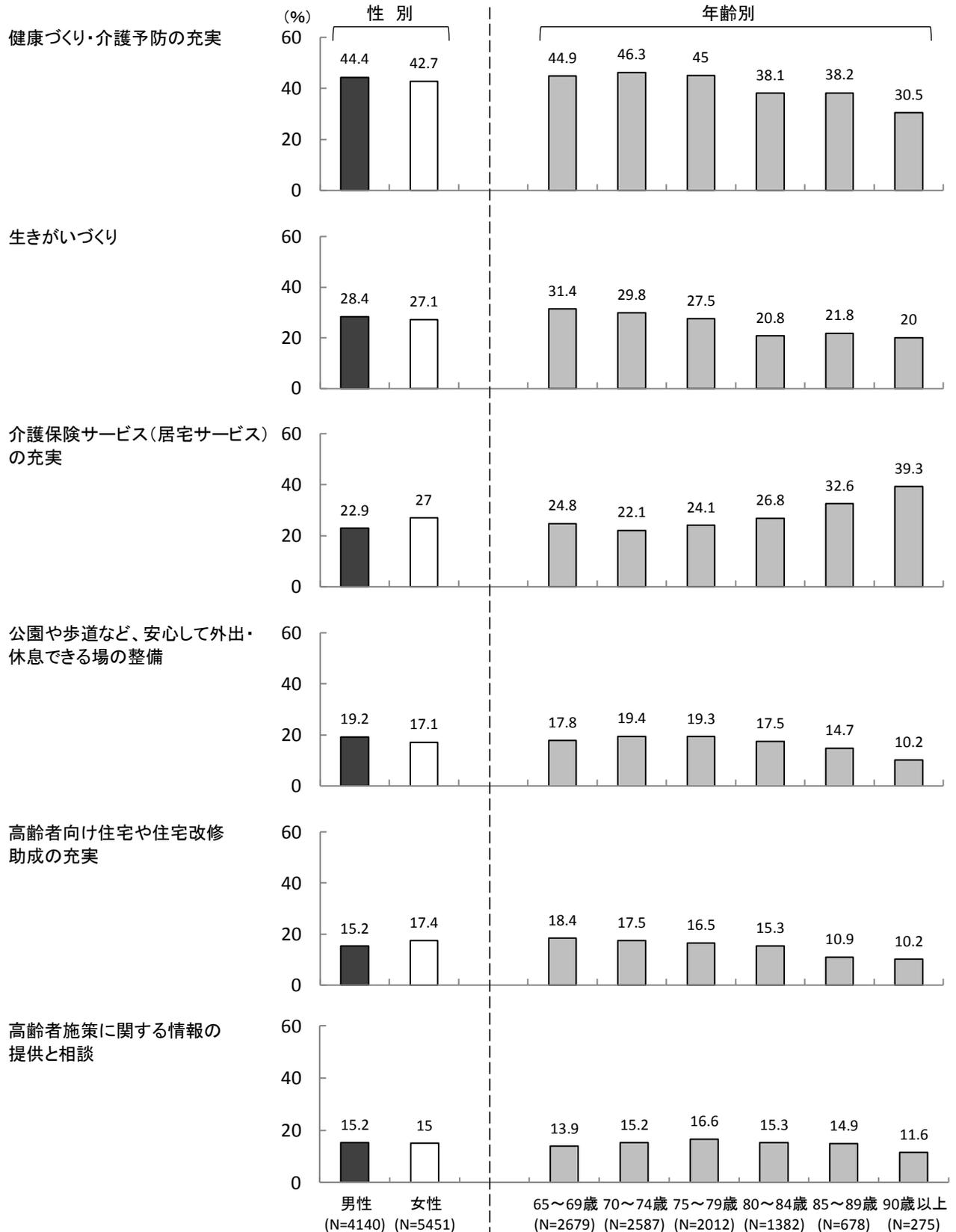


(8) 高齢者施策全般

問45 重点を置くべきと考える高齢者施策 (性別・年齢別)

- ・性別では、「介護保険サービス(居宅サービス)の充実」で、女性の回答割合が高くなっている。
- ・年齢別で見ると、「健康づくり・介護予防の充実」、「生きがいがづくり」については、年齢が若いほど高くなっている。
- ・「介護保険サービス(居宅サービス)の充実」については、高齢になるほど高くなっている。

【図45-a-1 重点を置くべきと考える高齢者施策(性別・年齢別)】

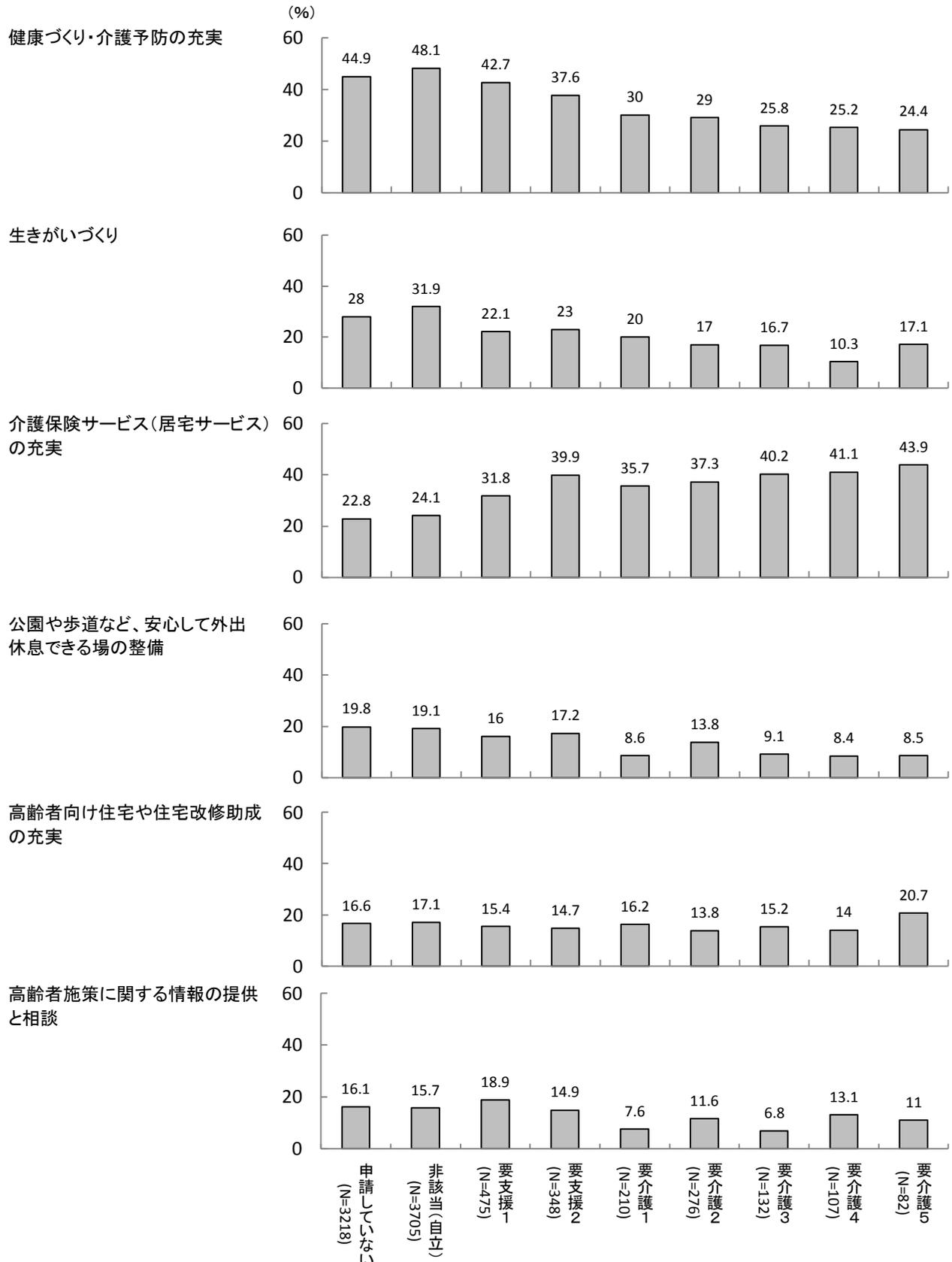


(8) 高齢者施策全般

問45 重点を置くべきと考える高齢者施策 (介護度別)

・介護度別で見ると、「健康づくり・介護予防の充実」「生きがいづくり」は、申請していない、非該当(自立)の方ほど高くなっており、介護度が上がるにつれて低くなっている。
 ・全体回答者の中では、「健康づくり・介護予防の充実」の割合が最も高いが、要支援2以上の方の回答では、「介護保険サービス(居宅サービス)の充実」が、最も高い割合となっている。

【図45-b-1 重点を置くべきと考える高齢者施策(介護度別)】



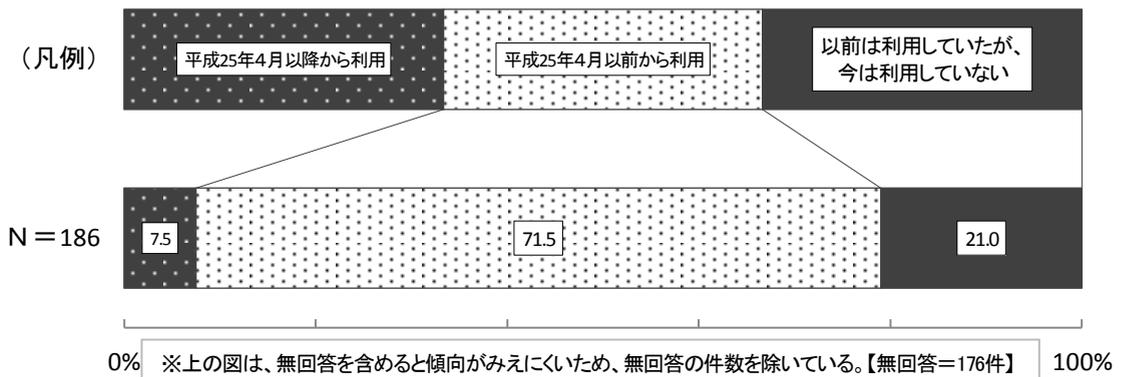
付 随 調 査

食事の会食サービス利用者調査

問1 利用(参加)の時期

- ・回答のあった方の中では、「平成25年4月以前から利用」している方が7割以上と多くなっている。
- ・また、「以前は利用していたが、今は利用していない」方は2割程度であり、「平成25年4月以降に利用の方」は、7.5%となっている。

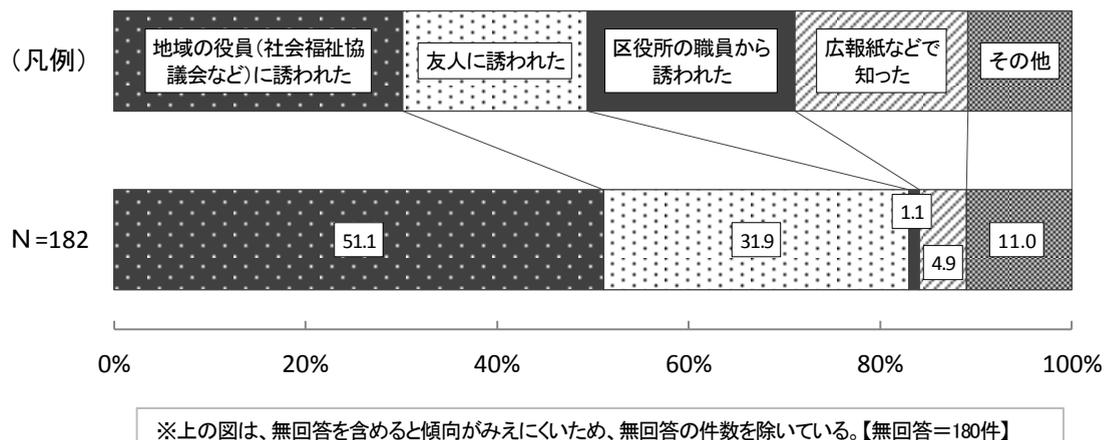
【図1-利用(参加)の時期】



問2 事業を誰から聞いたか

- ・回答があった方の中では、「地域の役員(社会福祉協議会など)に誘われた」方の割合が多く5割を超えている。次いで、「友人に誘われた」で3割程度となっている。
- ・その他としては、「ケアマネジャー」から聞いた、「子どもから進められた」などがあげられている。

【図2-事業を誰から聞いたか】

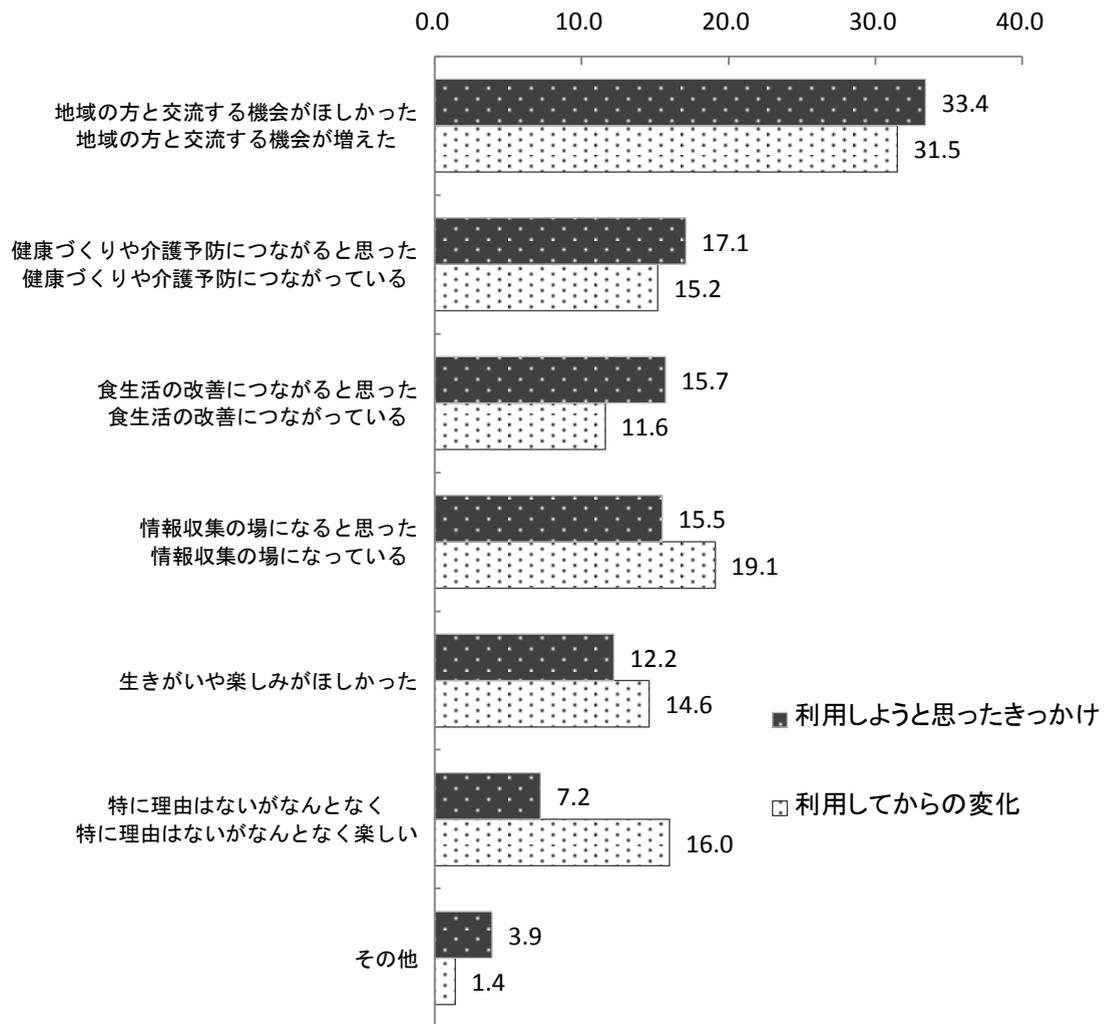


食事の会食サービス利用者調査

問3 利用しようと思ったきっかけ (複数回答)
問4 利用してからの変化 (複数回答)

- ・利用しようと思ったきっかけは、「地域の方と交流する機会がほしかった」が最も多く、次いで、「健康づくりや介護予防につながるといった」の順となっている。
- ・利用してからの変化についても、「地域の方と交流する機会が増えた」が最も多く、次いで多いのは「情報収集の場になっている」となっている。
- ・利用しようと思ったきっかけに比して、利用してからの変化が割合が多いのは、「特に理由はないがなんとなく楽しい」であり、8.8ポイント差となっている。

【図3.4 利用しようと思ったきっかけ、利用してからの変化】

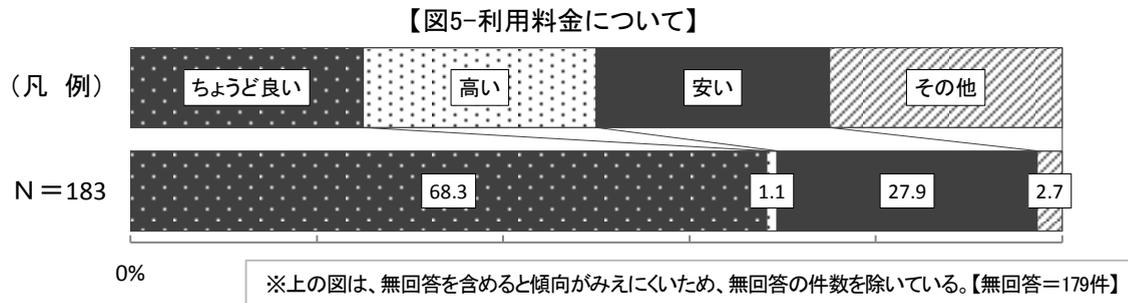


※上の図は、無回答を含めると傾向がみえにくいため、無回答の件数を除いている。
【問3無回答=174件】 【問4無回答=179件】

食事の会食サービス利用者調査

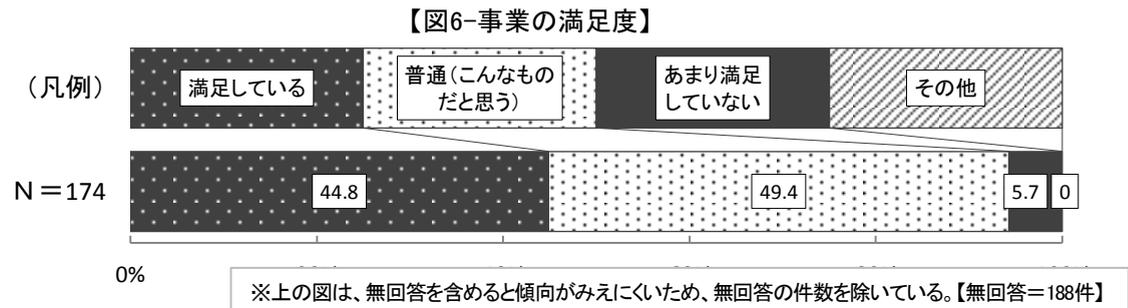
問5 利用料金について

- ・回答のあった方の中では、利用料金を「ちょうど良い」と回答している方が圧倒的に多く、68.3%となっている。「安い」と回答のあった方をあわせると、96.2%となる。
- ・他方、高いとの回答のあった方は、1.1%となっている。



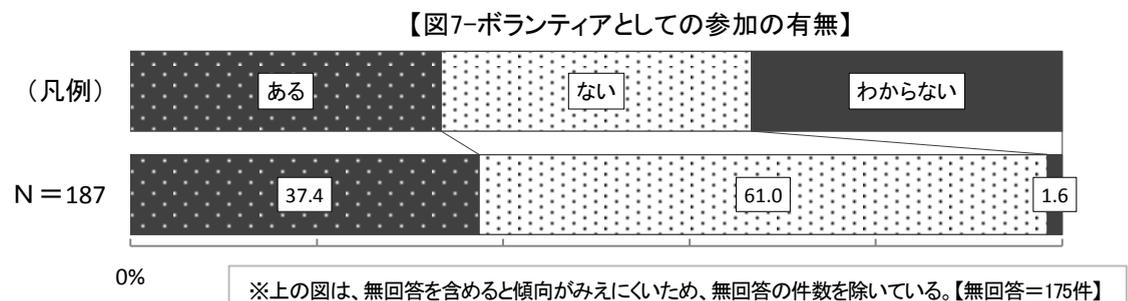
問6 事業の満足度

- ・回答のあった方の中では、事業の満足度について「普通（こんなものだと思う）」が5割弱で最も多くなっている。「満足している」とあわせると、94.2%となっている。
- ・他方、「あまり満足していない」方は、5.7%と低い割合となっている。



問7 ボランティアとしての参加の有無

- ・回答のあった方のうち、ボランティアとして参加したことが「ない」方の割合が多く61.0%となっており、一方、37.4%の方は利用者であり、ボランティアの参加もあるとの回答となっている。

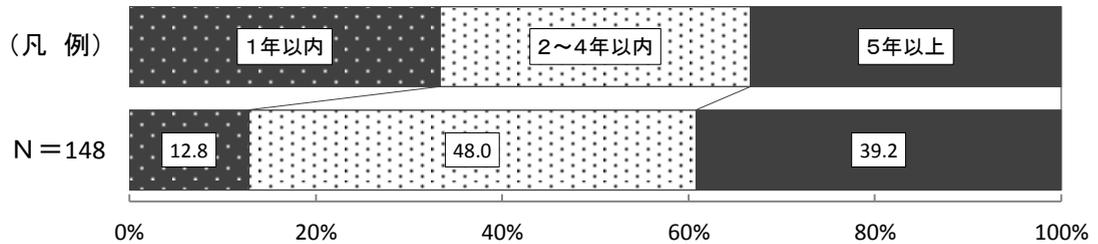


食事の会食サービス利用者調査

問8 事業の利用期間について

- ・回答のあった方のうち、「今年の4月以前から利用している」方に、事業の利用期間をたずねると、最も多いのは「2～4年以内」で約5割であり、次いで多いのは「5年以上」であり、4割弱となっている。
- ・「2年以上利用されている方」で87.2%となっている。

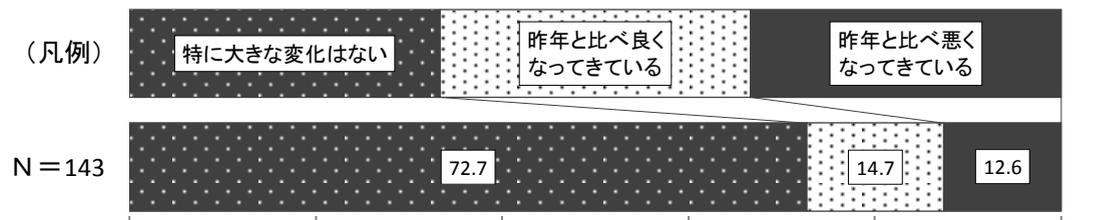
【図5-事業の利用期間について】



問9 昨年度と比べて事業に変化があったか

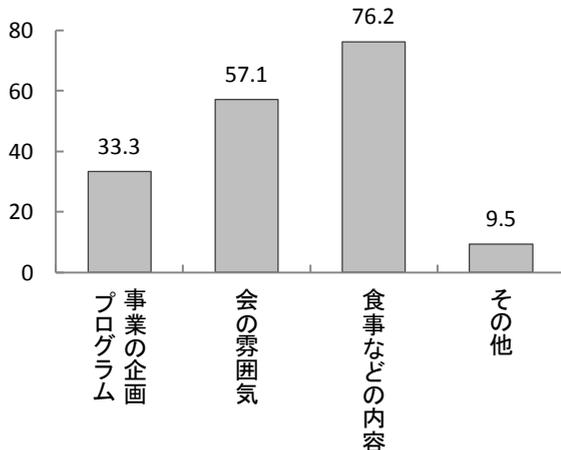
- ・回答のあった方のうち、「今年の4月以前から利用している」方に、事業の変化についてたずねると、「特に大きな変化はない」で72.7%となっている。
- ・「昨年と比べて良くなっている」が「悪くなっている」よりやや多くなっている。
- ・「良くなっている内容」「悪くなっている内容」は、ともに「食事の内容」が最も多くなっている。

【図9-昨年度と比べて事業に変化があったか】

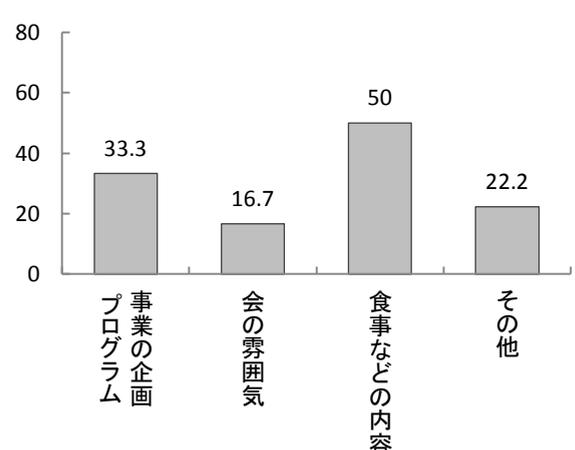


※上の図は、無回答を含めると傾向がみえにくいいため、無回答の件数を除いている。【無回答=219件】

(N=21) 図9-1 良くなっている内容



(N=18) 図9-2 悪くなっている内容

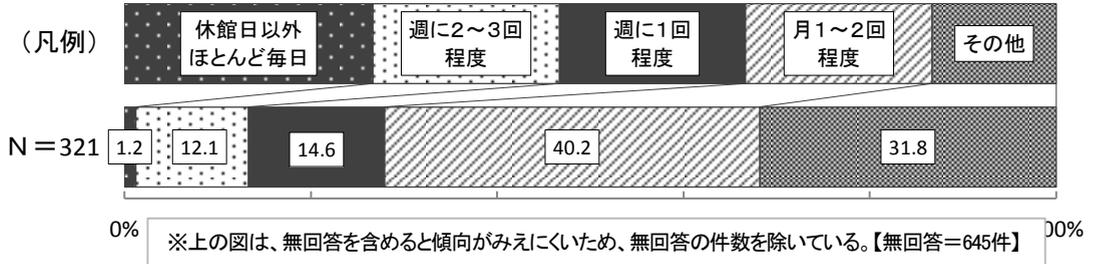


老人憩の家の利用者等調査

問1 事業の利用頻度について

・回答のあった方の中では、「月1～2回程度」が4割で最も多い。次いで多いのは「その他」となっている。
 ・その他回答としては、「2カ月に1度くらい」、「行事があるときに参加」「過去に1回だけ利用」などとなっている。

【図5-事業の利用頻度について】



問9 昨年度と比べて事業に変化があったか

・回答のあった方の中では、昨年と比べて変化については、「変わらない」が多く7割近くとなっている。
 ・機会が増えたかどうかについては、「利用する機会が少なくなった」が多くなっている。
 ・利用機会が多くなった理由では「参加している行事の回数が増えた」が多くなっている。
 ・利用機会が少なくなった理由では「その他」理由が最も多く、次いで「参加している行事の回数が減った」の順となっている。「その他」としては、病気で参加できなくなった、他の場所の行事に参加するようになったなどがあげられている

【図9-昨年度と比べて事業に変化があったか】

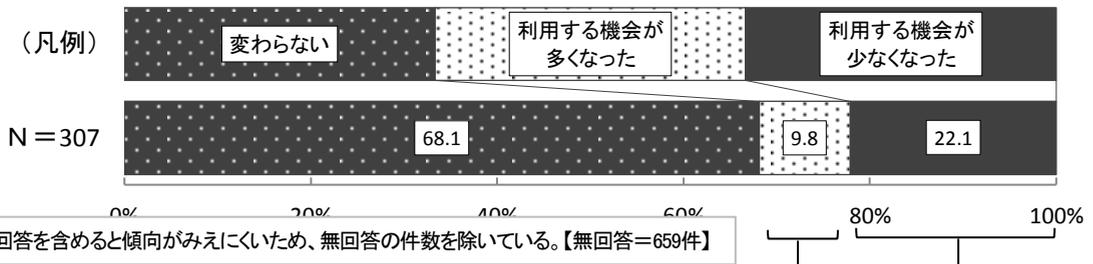


図2-1 利用機会が多くなった理由 (N=30)

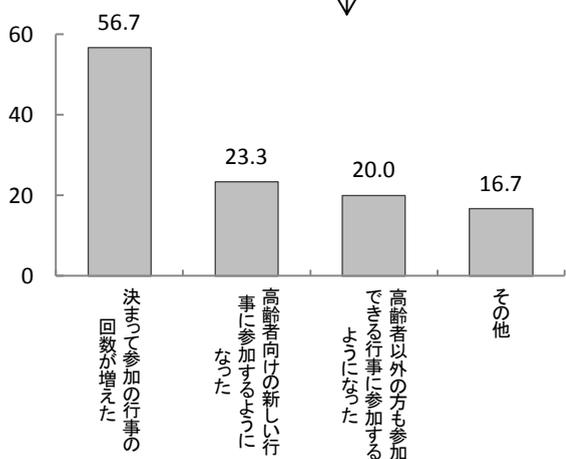
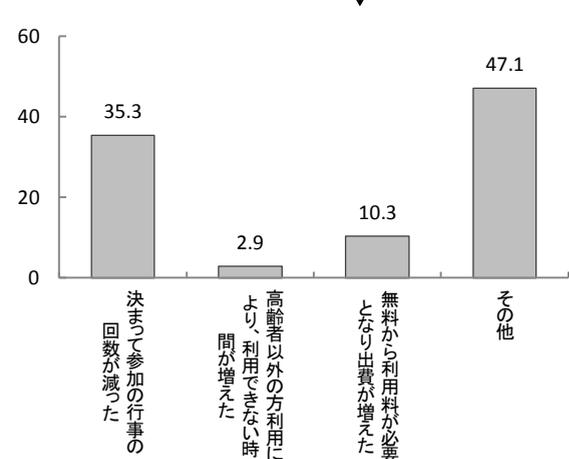


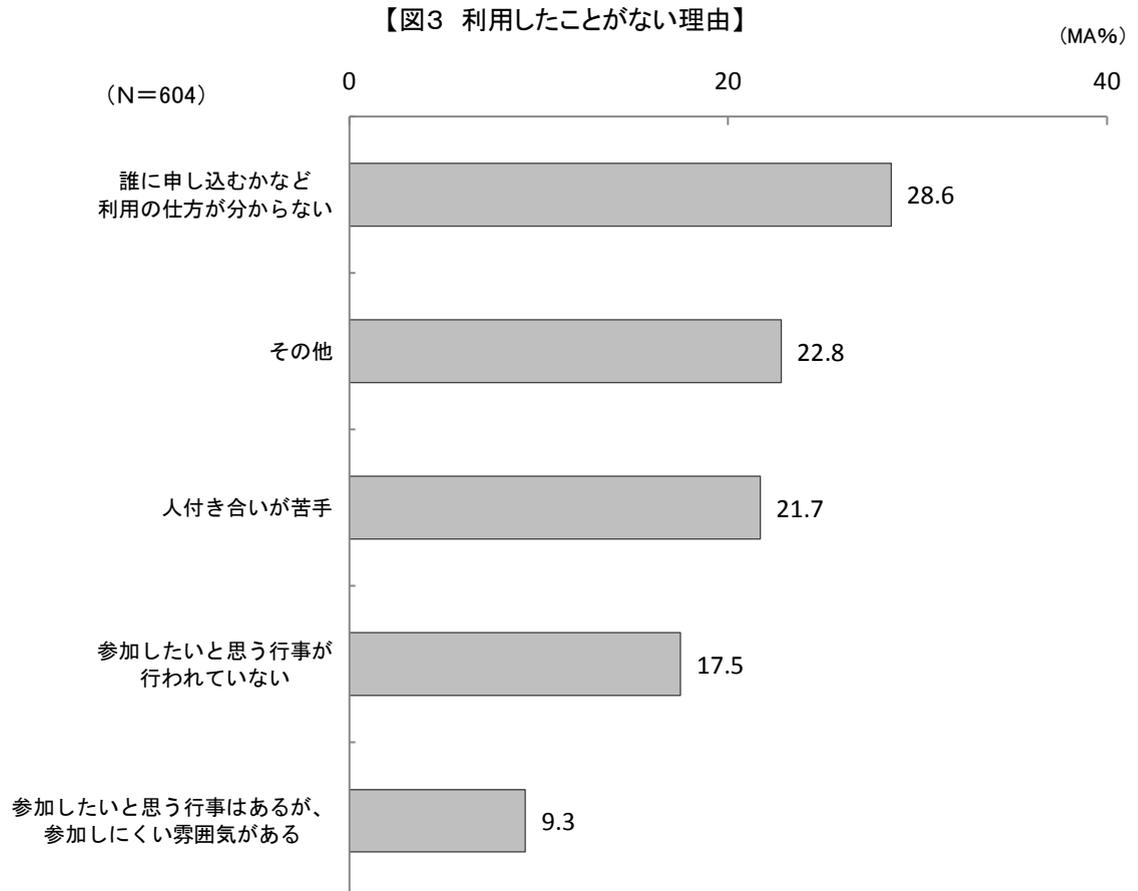
図2-2 利用機会が少なくなった理由 (N=68)



老人憩の家の利用者等調査

問3 (事業を利用したことがない方) 利用したことがない理由

・回答のあった方の中では、「誰に申し込むかなど利用の仕方がわからない」が3割程度で最も多い。次いで多いのは「その他」で、「人付き合いが苦手」が続いている。



※上の図は、無回答を含めると傾向がみえにくいため、無回答の件数を除いている。【無回答=4161件】